

令和7年度 こども環境科教育課程(1年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授業形態	時間数
基礎科目	ホームルーム活動Ⅰ	演習	60
	ホームルーム活動Ⅱ	演習	60
	自然体験活動	演習	30
	自然と環境	講義	30
	社会学	講義	30
領域及び保育内容の指導法に関する科目	健康論	演習	30
	人間関係論	演習	30
	環境論	演習	30
	言語論	講義	30
	音楽表現	演習	60
	造形表現	演習	60
	保育内容の指導法(健康)	演習	30
	保育内容の指導法(人間関係)	演習	30
	保育内容の指導法(環境)	演習	30
	保育内容の指導法(言葉)	演習	30
教育の基礎的理解に関する科目	保育内容の指導法(表現)	演習	30
	保育内容総論	演習	30
	教育原理	講義	30
	教職概論	講義	30
	教育社会学	講義	30
	発達心理学	講義	30
	教育心理学	講義	30
	特別の支援を必要とする幼児に対する理解Ⅰ	演習	30
保育の本質・目的に関する科目	特別の支援を必要とする幼児に対する理解Ⅱ	演習	30
	幼児教育課程総論	講義	30
	保育原理	講義	30
	子ども家庭福祉	講義	30
	社会福祉概論	講義	30
保育の対象の理解に関する科目	地域福祉論	講義	30
	社会的養護Ⅰ	講義	30
	子ども家庭支援論	講義	30
道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	子ども家庭支援の心理学	講義	30
	子どもの保健	講義	30
	子どもの食と栄養	演習	60
保育の内容・方法に関する科目	教育方法学	演習	30
	こども理解	演習	30
	教育相談・育児相談	演習	30
	保育基礎演習	演習	60
	子どもの健康と安全	演習	30
	乳児保育Ⅰ	講義	30
	乳児保育Ⅱ	演習	30
	子育て支援	演習	30
	社会的養護Ⅱ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	30
	器楽演奏法Ⅰ	演習	60
	器楽演奏法Ⅱ	演習	60
	ムーブメント教育・療法	講義	30
	児童文化論	講義	30
教育実践に関する科目	こどもの遊びと文化Ⅰ	演習	30
	こどもの遊びと文化Ⅱ	演習	30
	幼稚園教育実習	実習	225
保育実践に関する科目	教職実践演習(幼稚園)	演習	60
	保育実習ⅠA	実習	90
	保育実習ⅠB	実習	90
	保育実習指導ⅠA	演習	30
	保育実習指導ⅠB	演習	30
	保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	90
	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	演習	30
	保育実践演習	演習	60
施行規則第66条の6	英語コミュニケーション	演習	30
	情報技術	演習	30
	体育講義	講義	15
	体育実技	実技	45
施行規則第66条の6	日本国憲法	講義	30
	日本国憲法	講義	30
実務経験のある教員等による授業時数合計			390

令和7年度 こども環境科教育課程(2年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授業形態	時間数
基礎科目	ホームルーム活動	演習	60
	自然体験活動	演習	30
	自然と環境	講義	30
	社会学	講義	30
	健康論	演習	30
領域及び保育内容の指導法に関する科目	人間関係論	演習	30
	環境論	演習	30
	言語論	講義	30
	音楽表現	演習	60
	造形表現	演習	60
	保育内容の指導法(健康)	演習	30
	保育内容の指導法(人間関係)	演習	30
	保育内容の指導法(環境)	演習	30
	保育内容の指導法(言葉)	演習	30
	保育内容の指導法(表現)	演習	30
教育の基礎的理解に関する科目	保育内容総論	演習	30
	教育原理	講義	30
	教職概論	講義	30
	教育社会学	講義	30
	発達心理学	講義	30
	教育心理学	講義	30
	特別の支援を必要とする幼児に対する理解	演習	30
	幼児教育課程総論	講義	30
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	30
	子ども家庭福祉	講義	30
	社会福祉概論	講義	30
	地域福祉論	講義	30
	社会的養護Ⅰ	講義	30
保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援論	講義	30
	子どもの保健	講義	30
	子どもの食と栄養	演習	60
道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法学	演習	30
	こども理解	演習	30
	教育相談・育児相談	演習	30
保育の内容・方法に関する科目	保育基礎演習	演習	60
	子どもの健康と安全	演習	30
	乳児保育Ⅰ	講義	30
	乳児保育Ⅱ	演習	30
	子育て支援	演習	30
	社会的養護Ⅱ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	30
	器楽演奏法Ⅰ	演習	60
	器楽演奏法Ⅱ	演習	60
	ムーブメント教育・療法	講義	30
	児童文化論	講義	30
	こどもの遊びと文化Ⅰ	演習	30
	こどもの遊びと文化Ⅱ	演習	30
教育実践に関する科目	幼稚園教育実習	実習	225
	教職実践演習(幼稚園)	演習	60
	保育実習ⅠA	実習	90
保育実践に関する科目	保育実習ⅠB	実習	90
	保育実習指導ⅠA	演習	30
	保育実習指導ⅠB	演習	30
	保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	90
	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	演習	30
	保育実践演習	演習	60
	英語コミュニケーション	演習	30
	情報技術	演習	30
施行規則第66条の6	体育講義	講義	15
	体育実技	実技	45
	日本国憲法	講義	30
	日本国憲法	講義	30
実務経験のある教員等による授業時数合計			390

※ 青字・ゴシック体・網掛けの授業科目は、今年度開講する講義。

※ 時間数欄で、黄色網掛けの授業科目は、今年度開講する講義のうち実務経験のある教員等によるもの。

■ 成績評価について

成績は、科目の内容によりますが、筆記試験、実技試験、レポート、受講態度（学修意欲）、出席状況等を総合して100点満点で評価し、60点以上を合格として単位を認定しています。

評定と点数の関係は下記のとおりです。

秀	90点以上
優	80点以上90点未満
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満

なお、各科目の評価の合計点の平均（100点満点）を算出し、成績の分布状況を把握しています。

■ 卒業認定について

卒業に必要な単位数等の規定は、学則第11条に示されています。

卒業認定は、科目ごとの評価一覧表に基づき、「卒業・進級判定会議」において、各科目の単位の認定状況を確認し、協議の上、判定しています。

翌年度の認定の方針等については、年度末に職員会議等で協議の上、策定しています。

こども環境科 1 年

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動Ⅰ		演習	2	通年	田中 豊一 森田 有紀子
授業の目標	・クラスの一員として自覚をもつとともに集団の構成員として役割、責任を果たす経験をする。 ・学校行事やクラス活動への取り組みを通じて集団活動、行事等を計画的に進める経験をする。 ・クラス活動に主体的に参加し、リーダーシップをとる経験をする。 ・将来のクラス運営や職場内における業務の推進に資する企画力、行動力を習得する。				
授業の概要	各種オリエンテーション、クラス活動を行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	入学式・クラス開き	16	学校祭準備	
	2	教務ガイダンス	17	学校祭学内発表	
	3	学生生活について・学校探検	18	学校祭学内発表	
	4	マナー講座	19	学校祭一般公開	
	5	性教育	20	学校祭一般公開	
	6	クラス委員の選出など	21	学校祭一般公開	
	7	新入生歓迎会	22	学校祭片付け	
	8	学生会総会・地域清掃	23	職場説明会	
	9	スポーツ大会に向けて	24	学生会総会・クリスマス会	
	10	クラス活動	25	クリスマス会	
	11	スポーツ大会	26	保育実習に向けて	
	12	スポーツ大会	27	卒業式	
	13	前期の振り返り・履修カルテ作成	28	卒業式	
	14	学期末清掃	29	進級に向けて・履修カルテ作成	
	15	施設実習に向けて	30	年度末清掃	
評価方法		平常の受講態度で評価する。			
テキスト		使用しない。			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
自然体験活動		演習	2	前期	田中 豊一
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに自然を案内するネイチャーゲームリーダーの資格を取得する。 ・自然にかかわる楽しさを体験し、自然体験を生かした保育を展開できる資質を養う。 				
授業の概要	<p>シェアリングネイチャーの理念を学び、五感を使ったアクティビティを体験する。</p> <p>また、アクティビティの指導計画、すなわちフィールドKYTを通して、ペア学生に自然との出会いを促すことを目的とした計画を作成し、実践する機会をもつ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション、ノーズ、動物交差点			
	2	フィールドビンゴ、木の鼓動、音いくつ、サウンドマップ			
	3	カモフラージュ、カメラゲーム、サイレントウォーク			
	4	ネイチャーゲームとは			
	5	ネイチャーゲームを支える理念			
	6	動物ジェスチャー、ハビタット、ごちそうはどこだ、裸足で歩こう			
	7	いねむりおじさん、ネイチャーゲームを支える理念			
	8	宝探し、森の色合わせ、森の美術館			
	9	ネイチャーゲームの実践法			
	10	指導実習計画			
	11	フィールド KYT、指導実習			
	12	折り紙カモフラージュ、ミクロハイク			
	13	はじめまして、季節からの招待状			
	14	フィールドポエム、振り返り			
	15	自然の喜びを感じよう			
評価方法		平常の受講態度で評価する。			
テキスト		シェアリングネイチャー協会のテキストを使用			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
自然と環境		講義	2	前期	諫山 邦子
授業の目標	釧路湿原など、我が国第一級の自然環境背景をもつ本校において、環境を標榜する本学科で学ぶ将来の保育者として、必要な基礎知識を踏まえたうえで、幼児にやさしく自然を話せる技法を身につける。				
授業の概要	・ 釧路の自然の概要を知る。（火山・丘陵・湿原・湖沼・河川・海岸線） （多様な生物群・植物→動物たち） ・ 近辺のフィールドに出て、多様な生物群にふれ、保育者としての園児たちとの「話の」役割を考える。 ・ リスクマネジメントを知る。				
授業計画	回	テーマ	学習内容		
	1	オリエンテーション	釧路まで延長された高速道路と周縁の自然		
	2	釧路の山と火山	釧路のカルデラは世界最大級の規模を持つ		
	3	釧路湿原は日本一	日本一の釧路湿原とは		
	4	近くの自然林を知る	俗称（ビオトープの森とは）森の構造と私たち		
	5	ビオトープのまとめ	まとめの発表。森の階層構造・森林浴		
	6	釧路の川と湖沼	母なる釧路川と特徴ある湖沼群		
	7	釧路のオアシス春採湖	春採湖は貴重な市民の財産。座学		
	8	春採湖の巡検	実際に「園児」たちと訪れる春採湖へ		
	9	〃	〃		
	10	春採湖のまとめ	まとめを「発表」しあう。武佐の森とは		
	11	武佐の森の巡検	実際に武佐の森へ		
	12	〃	〃		
	13	釧路の気象と諸現象	蓮葉氷や御神渡りなどの珍現象		
	14	釧路の温泉と国立公園	釧路の国立公園と温泉の不思議		
	15	釧路の炭鉱は日本一	太平洋の海底炭を探ってみる		
	16	まとめ・学科試験	保育士として釧路の自然を語れるか		
評価方法		学科試験（60％） レポート／発表（40％）			
テキスト		毎回レジュメを渡します。			
参考文献		「国立公園シリーズ・釧路湿原国立公園」大西英一他 国立公園協会 2012 刊 「春採湖」釧路市立博物館刊 「釧路の里山・武佐の森」大西英一編著 釧路短期大学刊 「たのしい釧路きのこウォッチング」大西英一著 2012 刊 「釧路湿原 200 花選」大西英一編 くしろせんもん学校 2021 刊 他			
留意事項		○毎回配布するレジュメは試験場に持参できますのでファイルして大切にしてください。 ○レポートは提出がないと欠席になります。 ○授業内容は前後、変更になることがあります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間関係論		演習	1	後期	久納 里香
授業の目標	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。				
授業の概要	「人間関係」の指導の基礎理論として関係発達理論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の「人と関わる」が育つことを理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス：授業の趣旨と一貫するテーマの重要性			
	2	現代社会環境と人間関係の特徴			
	3	現代の人間関係の特徴からみた保育施設の役割			
	4	子どもの世界を理解する			
	5	豊かな保育の場を思い描こう			
	6	生涯を通した「人間関係」の原理とその発達			
	7	生涯を通した「人間関係」の原理とその発達			
	8	子どもの思考、探			
	9	子ども同士の関わり			
	10	子ども同士の関わり			
	11	グループワーク			
	12	対話「こどもかいぎ」			
	13	子どもと保育者との関わり			
	14	子どもと保育者との関わり			
	15	まとめ グループワーク			
評価方法		受講態度、レポート、コミュニケーション能力を総合的に評価する。			
テキスト		保育内容人間関係「あなたならどうしますか？」 編著：酒井幸子 著者：入江礼子・中野圭子・守巧・矢吹芙美子			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
環境論		演習	1	前期	倉賀野 志郎
授業の目標	【授業の目的・ねらい】 領域「環境」に関する知識・技能を習得する。				
授業の概要	【授業全体の内容の概要】 広義の意味での乳幼児の働きかけに応じての「環境」の意義、乳幼児の思考・科学的概念の発達、標識・文字等、情報・施設との関わりの事象に関する興味、関心の発達を学ぶ。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 領域「環境」の指導の基盤となる、乳幼児の働きかけに応じての「環境」、乳幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	広義の意味での「環境」のとらえ方：乳幼児の働きかけに応じての環境像			
	2	働きかけ・働きかけられる手の果たす役割			
	3	人とのかかわりと表現・サインによる伝えあいから環境をとらえる			
	4	乳幼児期・児童期の感覚・認知発達・とりわけ未満児・以上児に着目して			
	5	可塑性を内包する脳と発達			
	6	遊びを通じた環境とのかかわり			
	7	乳幼児とものとのかかわり①：思考力の芽生えと豊かな感性			
	8	乳幼児と自然とのかかわり②：身の回りの素材とものづくり			
	9	乳幼児期・児童期の認知発達：マチガエルことに着目して			
	10	乳幼児とものとのかかわり③：身の回りの生き物環境			
	11	乳幼児と自然とのかかわり④：協同してのものづくり			
	12	乳幼児と数量や図形とのかかわり			
	13	乳幼児の標識や文字とのかかわり			
	14	領域「環境」から「生活」へ			
	15	まとめ			
	16	テスト			
評価方法		【単位認定の方法及び基準】 レポートの評価基準など 平常の受講態度とテストで評価			
テキスト		○平成 29 年度・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説 ○氏原・倉賀野：幼児の「環境」研究グループ：幼児教育と「子ども環境」：豊かな発達と保育の環境・明石書店			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
言語論		講義	1	前期	山下 晶子
授業の目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的事項を身につける。具体的には、人間の証ともいえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。				
授業の概要	(1) 言葉のもつ意義と機能 (2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践 (3) 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 人間にとって「言葉」とは			
	2	人間にとっての言葉の意義と機能			
	3	子どもは、言葉をどのように獲得するのか？			
	4	子どもの言葉の発達過程 誕生から、書き言葉 習得まで（言葉の発達過程①）			
	5	子どもの言葉の発達過程 誕生から、書き言葉 習得まで（言葉の発達過程②）			
	6	言葉に対する感覚とは何か			
	7	言葉の美しさ、楽しさを感じよう			
	8	言葉に対する感覚を豊かにするとは？			
	9	児童文化財とは			
	10	言葉の感覚を豊かにする児童文化財の実際 絵本①			
	11	言葉の感覚を豊かにする児童文化財の実際 絵本②			
	12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際 紙芝居			
	13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際			
	14	言葉の展望			
	15	まとめ			
	16	期末試験			
評価方法		授業の取り組み 30% レポート 30%、試験 40%			
テキスト		保育内容「言葉」と指導法 理解する考える実践する（中央法規） 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育所保育指針解説			
参考文献		適宜紹介する			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
音楽表現		演習	2	通年	川崎 晶子
授業の目標	1. 保育、幼児の表現活動で必要とされる基礎知識を身につける。 2. 音楽表現を通して、音楽の楽しさを子どもと共感できる技術の習得。				
授業の概要	表現の指導に必要な音楽の基礎知識を学び、実践するための能力を身に付け、子どもの豊かな感性を育てるための表現遊びを学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション（表現のねらい、内容の理解）	16	調の変化について	
	2	音楽基礎知識の学習（楽典）	17	表現遊び（手遊び）	
	3	歌唱表現（発声について）	18	表現遊び（わらべ歌）	
	4	歌唱表現（子どものうた）	19	表現遊び（身体表現活動）	
	5	音楽基礎知識の学習（楽典）	20	楽器活動（ミュージックベル）	
	6	歌唱表現（生活のうた）	21	楽器活動（器楽アンサンブル）	
	7	歌唱表現（季節のうた）	22	音楽基礎知識の学習（楽典）	
	8	リズム表現活動	23	身体表現活動（ボディパーカッション）	
	9	楽器遊び	24	身体表現活動（リトミック）	
	10	楽器遊び（アンサンブル）	25	歌唱表現（合唱）	
	11	音楽の基礎知識の学習（楽典）	26	音楽基礎知識の学習（楽典）	
	12	歌唱活動（行事のうた）	27	簡易伴奏の基礎	
	13	歌遊びの歌唱表現	28	創作活動（絵本と音）	
	14	拍子の変化について	29	創作活動（絵本と音楽）	
	15	和音のしくみ	30	まとめ 振り返り	
評価方法		出席状況、演習の取り組み、試験を総合的に判断			
テキスト		「子どものための音楽表現技術」萌文書林 「こどものうた 200」チャイルド本社			
参考文献		参考書・参考資料等 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説			
留意事項		学生の音楽経験や音楽に対する理解度・能力を考慮しながら進める。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
造形表現		演習	2	通年	福士 隆敏
授業の目標	保育者としての感性、創造性を養い、幼児の造形表現を支える技能を身につける。				
授業の概要	領域「表現」に基づき、表現とは何か、その生成過程、造形表現の発達を学ぶことから始め、幼稚園・認定こども園・保育所で実践できる絵の具遊びや絵画技法、粘土遊び、自然物を使った造形表現、友達との対話を踏まえた共同制作、ICTを活用した造形表現を行う。また、学生の感性を高めるため、鑑賞遊びを行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	表現について～領域「表現」のねらい・内容		16	鑑賞遊び：美術館見学
	2	表現の生成過程		17	鑑賞遊び：美術館見学
	3	造形表現の発達		18	共同制作：紙芝居
	4	絵の具遊び：フィンガーペインティング		19	共同制作：紙芝居
	5	絵の具遊び：デカルコマニー		20	共同制作した紙芝居の発表
	6	絵の具遊び：スタンプング		21	粘土遊び：油粘土
	7	絵の具遊び：マールブリング		22	粘土遊び：油粘土
	8	幼児の表現行為		23	描画技法：スクラッチ
	9	幼児の表現行為		24	描画技法：フロッタージュ
	10	幼児の表現行為を育む環境構成		25	共同制作：立体制作
	11	自然との対話		26	共同制作：立体制作
	12	自然物を使った造形表現		27	立体制作振り返り
	13	自然物を使った造形表現		28	ICT を活用した造形表現
	14	染色：草木染め		29	ICT を活用した造形表現
	15	染色：絞り染め		30	造形表現のまとめ、プレゼンテーション
評価方法		提出物：80％、受講態度：20％			
テキスト					
参考文献		幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法（環境）		演習	2	後期	山下 晶子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が身近な環境に好奇心や探求心をもって関わるができるように、領域「環境」の指導のために必要な知識・技術を身に付ける。その際、「身近なものに関わり感性が育つ」や小学校「生活」との接続を意識する。 ・幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 				
授業の概要	保育の基本としての環境を通した教育・保育、領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いから出発し、身近な環境として動物、自然に受講生自身が関わる体験をし、子どもがそれらに好奇心や探求心をもって関わるために必要な環境設定を考える。また、お店屋さんごっこの指導計画を立て、実践し、振り返る。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	環境を通した教育・保育			
	2	領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱い			
	3	生命の尊重を感じられる施設としての動物園			
	4	こども動物園触れ合い体験			
	5	生活、理科への学びにつなぐ～動物園北海道ゾーン探索			
	6	自然の美しさ、不思議さに気付く保育			
	7	秋の自然を使った遊び			
	8	物とのかかわり			
	9	数量・図形・標識・文字などへの関心を育てる			
	10	お店屋さんごっこ構想、指導計画作成			
	11	お店屋さんごっこ準備			
	12	お店屋さんごっこ実践、振り返り			
	13	年中行事～春・夏			
	14	年中行事～秋・冬			
	15	まとめ			
	16	期末試験			
評価方法		ワークシート 10%、お店屋さんごっこ 20%、小レポート 20%、試験 50%			
テキスト		使用しない			
参考文献		保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法（言葉）		演習	2	後期	森田 有紀子
授業の目標	領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育構想する方法を身に付ける。				
授業の概要	言葉の意義や機能について、言葉の発達過程を様々な視点から捉えながらグループワークにより体験し、援助の方法を考える。絵本・紙芝居などの児童文化財の読み方演じ方を習得し、指導案を作成する。言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びや書く遊びを体験し、具体的な環境設定や援助を学ぶ。また、資料を通して小学校への繋がりを理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	言葉の持つ機能と領域「言葉」			
	2	言葉の発達過程と言葉に遅れがある子どもの理解			
	3	絵と言葉の豊かな世界「絵本」とは			
	4	絵と言葉の豊かな世界（絵本の読み聞かせ）			
	5	絵本の読み聞かせ（指導案作成）			
	6	絵本の読み聞かせ（実践）			
	7	絵と言葉の豊かな世界「紙芝居」			
	8	絵と言葉の豊かな世界「演じ方」			
	9	物語型紙芝居と参加型紙芝居（実践）			
	10	想像や言葉の世界を楽しむ「素話」			
	11	素話（実践）			
	12	言葉を楽しむ「言葉遊び」			
	13	書く楽しさ伝えるうれしさ「書く遊び」			
	14	書く楽しさ伝えるうれしさ「話す遊び」			
	15	小学校での学習のつながり			
	16	試験			
評価方法		試験 70%、課題や演習への取り組み、受講態度 30%			
テキスト		保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』同文書院			
参考文献		幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容総論		演習	2	前期	羽鳥 美乃
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちに必要環境（活動・保育者の援助等）を知る。 ・自身の保育観を見つける。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育保育要領の内容 ・子どもの活動の写真、動画から子どもの動きや気持ちを読みとる 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	5 領域 養護とは			
	2	幼保小連携について			
	3	健康①			
	4	健康②			
	5	人間関係①			
	6	人間関係②			
	7	言葉①			
	8	言葉②			
	9	環境①			
	10	環境②			
	11	表現①			
	12	表現②			
	13	記録の書き方（指導案・日案・週案・月案の書き方）			
	14	まとめ①			
	15	まとめ②			
	16	テスト			
評価方法		課題 提出物 受講内容			
テキスト		幼保連携型認定こども園教育保育要領			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育原理		講義	2	前期	木戸口 正宏
授業の目標	<p>1、幼児期およびその隣接領域としての学童期の子どもたちの成長・発達の課題について、その基本的な内容を学ぶ</p> <p>2、これらの課題の解決に向けて、幼稚園教育・（小学校を中心とした）学校教育は、どのような機能・役割を果たすか、その基本的な内容を学ぶとともに、さまざまな実践例や記録に触れることを通して、具体的な形で子どもとのかかわり方について考えていく</p>				
授業の概要	<p>本講義では、幼児期およびその隣接領域としての学童期の子どもたちの成長・発達の課題について、その基本的な内容を学ぶとともに、子どもたちの成長・発達の背景となる社会的条件がどのように変化しているのかについて学ぶ（受講者の興味・関心によって適宜内容を変えたい）。</p> <p>また、これらの課題の解決に向けて、幼稚園教育・（小学校を中心とした）学校教育は、どのような機能・役割を果たすべきなのか、その基本的な内容を学ぶとともに、現在の子育て環境の下で、期待される幼稚園教育の役割について、いくつかの実践例にそくして具体的に学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス—育ちの「原風景」を考える			
	2	幼児教育をめぐる最近の動向 その1			
	3	幼児教育をめぐる最近の動向 その2			
	4	子育ての社会的条件の変化について			
	5	幼稚園教育の課題1—他者への基本的信頼の獲得			
	6	幼稚園教育の課題2—基本的な生活習慣の確立			
	7	幼稚園教育の課題3—自己肯定感の獲得			
	8	幼稚園教育の課題4—社会性・道徳性の基本の確立			
	9	子育て・幼児教育における源流を考える			
	10	幼小連携という視点—「小1 プロブレム」			
	11	地域との連携—「子育て支援」という視点から			
	12	幼児教育をめぐる社会的課題 その1			
	13	幼児教育をめぐる社会的課題 その2			
	14	幼児教育をめぐる社会的課題 その3			
	15	講義のまとめ・レポートへの取り組み			
評価方法		講義への参加状況（30 点）およびレポート（70 点）により採点します。			
テキスト		講義中に配布します。			
参考文献		講義中に適宜提示します。			
留意事項		幼稚園実習の準備教育と位置づけられている科目です。それぞれの方が保育・教育現場の課題に関心を持ち、積極的に参加していただくことを希望します。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
発達心理学		講義	2	前期	福岡 真理子
授業目標	1. 保育に携わる者に必要不可欠な子どもの発達の特長や発達過程を理解し、発達ならびに生活の連続性に配慮して保育をできるように、基本的な知識・技能を学び習得する。 2. 子ども一人ひとりの心身の状態を把握して発達の援助を行う意識付けを強くする。 3. アクティブラーニングによる他者とのコミュニケーション能力を培う。				
授業概要	誕生から老年期に至るまでのからだやこころ（精神）の様々な変化を、心理学の視点で理解をしていく。特に出生してから小学生までの子どもがどのように発達するかを深く知り、どのように関わることが必要かを習得する。講義による理解とともに、自分たちでの課題追究や発表、グループ討議を通じて保育者に必要な基本知識を深める。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス、発達心理学って何だろう			
	2	序章：発達って何だろう 「子どものイヤイヤ」			
	3	第1章：誕生時からある不思議な能力【胎児期、新生児期】			
	4	第2章：コミュニケーションの基礎ができる【乳児期】			
	5	第3章：感覚からイメージの世界へ【幼児期Ⅰ】			
	6	発達ルポ：知っておきたい発達の障害			
	7	第4章：「わたし」と「あなた」の違いに気づく【幼児期Ⅱ】			
	8	第5章：思考力がつき、人間関係が発達する【児童期】			
	9	まとめ：「コラムとトピック」1～5章			
	10	まとめ：乳幼児の発達でわかったこと			
	11	発達ルポ：つまずきへのサポート			
	12	第6章：子どもと大人の間で揺れ動く【青年期】			
	13	第7章：変化し続けるこころとからだ【成人期以降】			
	14	まとめ：「コラムとトピック」6～7章、発達ルポ			
	15	「子どものイヤイヤ」発表			
	16	試験			
評価方法		提出物（毎回）30%、試験70%			
テキスト		最新図解 よくわかる発達心理学（ナツメ社） 林洋一監修 「子どものイヤイヤ」（実務教育出版） 中田馨・クリハラタカシ著			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
特別の支援の必要とする幼児に対する理解 I		演習	2	前期	田中 豊一
授業目標	福祉施設での実習及び将来、特別な配慮が必要な幼児がいる保育所等に就労した場合に役立つ知識、技能、思考、判断の力を養う。				
授業概要	近年、保育、幼児教育の現場では、特別の支援を必要とする幼児が増えている。インクルーシブ保育の理念と、保育の形も保育所や幼稚園等での支援、療育施設への通園、特別支援学校幼稚部での幼児教育と多様化している。本講座では、障がい種ごとの特性や支援方法について学ぶとともに障がい児・者の福祉分野も含め、「対人援助職として個別の教育的ニーズへの対応」「保育士としての関係機関と連携」など実践的な知識や支援方法について学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	インクルーシブ保育と発達保障	オリエンテーション・障がいについて		
	2	障害者の権利に関わる条約と関連法令	ICF や各種法令と保育の関連		
	3	特別な教育的ニーズと発達、障がい観の変遷	発達の視点から障がいを理解する		
	4	インクルーシブ教育（保育）の現状について	「特別にしない」支援教育の視点から		
	5	知的障がいに関わる生理と病理	知的障がいの特性とその支援方法		
	6	知的障がいの支援の実際	知的障がいの指導の実際（ビデオ視聴）		
	7	自閉症スペクトラム障害（ASD）について	ASD の障がい特性とその支援方法		
	8	自閉症・情緒障がいへの支援の実際	事例検討、または施設見学		
	9	聴覚の障がいについて	聴覚障がいの特性とその支援方法		
	10	聴覚障がいへの支援の実際	釧路鶴野支援学校見学		
	11	言語障がいの障がい特性とその支援方法	言語障がいへの支援、配慮の方法		
	12	視覚障がいの障がい特性とその支援方法	視覚障がいの認知の特性と支援方法		
	13	肢体不自由の障がい特性とその支援方法	身体の動きに関わる障がいとその支援方法		
	14	教育支援計画、個別の指導計画について	個別の指導計画の内容、作成手順を知る		
	15	ライフステージの移行と進路、就労に関わって	障がい児・者の進路、就労について知る		
	16	定期試験			
評価方法		・毎授業後の個人別学修シート記入内容（40%）・定期試験（60%）			
テキスト		参考文献、行政資料などから適宜、プリント資料を作成し配布する。			
参考文献		・近藤直子 白石正久 中村尚子「保育者のためのテキスト障害児保育」全障研出版部 2013 ・玉村公二彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編「キーワードブック特別支援教育インクルーシブ教育時代の基礎知識」（クリエイツかもがわ）2019 ほか			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育原理		講義	2	前期	山下 晶子
授業の目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. わが国における保育に関する法令及び制度について理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。				
授業の概要	保育の意味、保育所の役割と責任から始まり、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本を解説する。また、保育の歴史と思想を概観し、保育の思想として倉橋惣三の保育論を解説する。適宜、ニュースなどを通して、保育の現状と課題について考察し、最後に保育の場における子育て支援について学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育の意味、保育所の役割と責任			
	2	保育の基盤としての子ども観			
	3	子どもの最善の利益と保育			
	4	子ども家庭福祉と保育			
	5	児童福祉法における保育の位置付け			
	6	保育の課題			
	7	保育の実施体系			
	8	保育の目標、基本			
	9	保育の内容			
	10	子どもの理解に基づく保育の計画・実践・記録・改善			
	11	西洋の保育の歴史と思想			
	12	日本の保育の歴史			
	13	倉橋惣三に学ぶ保育			
	14	保育の場における子育て支援			
	15	まとめ			
	16	期末試験			
評価方法		小テスト（20%）、小レポート（20%）、期末試験（60%）			
テキスト		柴崎正行『改訂2版 保育原理の基礎と演習』わかば社			
参考文献		保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子ども家庭福祉		講義	2	後期	日置 真世
授業の目標	①権利主体としての「子ども」理解する ②今の日本における子どもや子育てを取り巻く環境について理解する の2点を実体験や具体的なイメージをもって理解することで、子育てを親だけに押し付けることなく、社会全体で子どもの最善に利益を考える仕組みやその担い手としての自覚や期待される考え方や行動について自分の問題として考え、行動できるようになることを目標とします。				
授業の概要	集中講義のメリットを生かし、グループワークやゲストによる経験談などできるだけ子ども家庭福祉についてリアリティを感じる話題や教材を使い、それについて議論したりします。ときどき、体験的に学んだことをテキストや資料で確認します。子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得ると同時に、理解するための土台(身近なことを自分のこととして、考える、想像する、人の話を聞くなど)を養っていきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション 子どもとは？		16	
	2	子どもの権利について①		17	
	3	子どもの権利について②		18	
	4	子どもの権利について③		19	
	5	権利主体としての子どもをめぐる法制度		20	
	6	子育て環境について知る(経験談など)		21	
	7	子育て環境について知る(経験談など)		22	
	8	子育て環境について知る(経験談など)		23	
	9	子育て環境について考える(まとめ)		24	
	10	児童福祉施設やサービスの理解		25	
	11	子ども家庭福祉をつくる(調査や議論)		26	
	12	子ども家庭福祉をつくる(調査や議論)		27	
	13	子ども家庭福祉をつくる(発表、共有)		28	
	14	これまでの講義で学んだことのまとめ		29	
	15	試験の振り返り		30	
評価方法		試験(持ち込み可能)にて評価 提出物と授業態度等も考慮			
テキスト		子どもと家庭の福祉を学ぶ(ななみ書房)			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会福祉概論		講義	2	前期	日置 真世
授業の目標	社会福祉に関する基礎知識を確認しながら、自分たちの生活の中から福祉の問題を感じたり、捉えなおしたり、考えたりすることで、福祉が特別な人のためのものではなく、誰にとっても身近な存在であるという視点を身につけ、一人ひとりの「生活の質」を考えるきっかけをつくります。最終的には「福祉とは何か？」という問いに対して一人ひとりが自分の言葉や自分の経験から説明できるようになることを目標とします。				
授業の概要	集中講義のメリットを生かし、グループワークやゲストによる経験談などできるだけ社会福祉についてリアリティを感じる話題や教材を使い、それについて議論したりします。 ときどき、体験的に学んだことをテキストや資料で確認します。社会福祉に関する基礎的な知識を得ると同時に、理解するための土台（身近なことを自分のこととして、考える、想像する、人の話を聞くなど）を養っていきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション、福祉とは何か？①	16		
	2	福祉とは何か？②	17		
	3	身近な福祉を知る（経験談など）	18		
	4	身近な福祉を知る（経験談など）	19		
	5	福祉制度の概要と理念（全体像）	20		
	6	生活保護制度について	21		
	7	「他の者との平等」を考える	22		
	8	映画から福祉を考える①	23		
	9	映画から福祉を考える②	24		
	10	福祉関連法制度やサービスの理解	25		
	11	身近な福祉をつくる（調査や議論）	26		
	12	身近な福祉をつくる（調査や議論）	27		
	13	身近な福祉をつくる（発表、共有）	28		
	14	これまでの講義で学んだことのまとめ	29		
	15	試験の振り返り	30		
評価方法	試験（持ち込み可能）にて評価 提出物と授業態度等も考慮				
テキスト	生活事例からはじめる 新版 社会福祉（青踏社）				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会的養護Ⅰ		講義	2	後期	豊島 節子
授業の目標	誰もが、かけがえのない存在である子どもが健やかに育つことを願っている。しかし今日、児童虐待の増加など、子どもの問題は深刻化しており、それに伴い児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもは増えている。何らかの事情で安全かつ安心できる家庭環境を奪われた子どもは国が保障する特別の保護および援助を受ける権利を有している。そのために国が整備した特別の保護および援助体制が社会的養護である。その理念、制度、方法（実践）など基本的な内容について理解する。				
授業の概要	基本的にはテキストに沿いながら学習する。子どもに関わる事件や事故等の情報があつた場合には、できるだけ共有し本質的な理解に繋げていく。また映像教材なども利用しながら、並行して社会的養護の実践をイメージできるようにする。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション 社会的養護の理念と概念		16	
	2	社会的養護の歴史的変遷		17	
	3	子どもの人権擁護と社会的養護		18	
	4	社会的養護の基本原則		19	
	5	社会的養護における保育士の倫理と責務		20	
	6	社会的養護の制度と法体系		21	
	7	社会的養護のしくみと実施体系		22	
	8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		23	
	9	社会的養護の対象と支援のあり方		24	
	10	家庭養護と施設養護		25	
	11	社会的養護にかかわる専門職		26	
	12	社会的養護に関する社会的状況		27	
	13	施設等の運営管理の現状と課題		28	
	14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題		29	
	15	社会的養護と地域福祉の現状と課題		30	
評価方法		筆記試験、受講態度、提出物等総合的に評価			
テキスト		中央法規 新基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ			
参考文献		福祉小六法			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子どもの保健		講義	2	後期	長谷 由香
授業の目標	現代社会における子どもの健康の現状を理解し、保育に必要な知識を身につけることができる。保育における子どもの健康管理について必要な知識・対応方法を学び、興味・関心をもって実践に向かうことができる。				
授業の概要	保育のおかれている現状に興味・関心を寄せ、広い視野でこどもの健康な発育・発達について理解を深めていってほしいと思います。講義では、グループワークで事例検討する機会を持ち、お互いの意見交換を行い、実践につながる知識の習得を目指していきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	こどもの保健とは・オリエンテーション			
	2	保護者との情報共有と家族の支援			
	3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題			
	4	地域における保健活動と子ども虐待防止			
	5	子どもの発育・発達と運動機能の発達			
	6	子どもの発育・発達と生活習慣			
	7	子どもの生理機能の発達と生活習慣			
	8	子どもの身体・運動機能の発達			
	9	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握			
	10	子どもの病気①感染症			
	11	子どもの病気②慢性疾患			
	12	子どもの病気③事故・ケガへの対応、急性疾患			
	13	子どもの病気④先天性疾患			
	14	子どもの健康管理と適切な対応			
	15	まとめ・レポート課題の説明			
評価方法		レポート課題（50％）講義後振り返りレポート（25％）授業参加（25％）			
テキスト		「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト（治療と診断社）」			
参考文献		「子どもの保健ハンドブック（萌文書林）」			
留意事項		実習時期と合わせ講義内容の入れ替えあり			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子どもの食と栄養		演習	2	前期	佐藤 あゆ美
授業目標	1. 乳幼児が、心身ともに健やかな発育・発達をするための栄養と食生活全般に関する基礎知識と、現場での実践法を、合わせて習得する。 2. 離乳食、幼児食、栄養バランスと料理などについて、調理実習を通して、一人一人が体験する。 3. 「食を営む力」は、子どもだけでなく、保育者自身の生活の質を左右する重要事項であり、社会人としての自覚を養う上でも、自分事として食の問題を捉える。				
授業概要	・講義の基本は、前年度に準ずる。 ・調理実習①②③の3回とし、いずれも衛生管理を厳重にして行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション	16	〈小児期の病気と食事、アレルギー〉	
	2	栄養に関する基礎知識 1	17	調理実習②	
	3	栄養に関する基礎知識 2	18	〈乳幼児期に多い食物アレルギーに対応する調理〉	
	4	栄養バランスのとれた食事とは	19	保育所における食育	
	5	食事バランスガイド	20	衛生管理と食中毒	
	6	私の食事バランスは？	21	調理実習③	
	7	子どもの発育、発達と食生活 1	22	〈災害時に役立つパッキング〉	
	8	〈胎児、妊娠期、乳汁期の栄養〉	23	保育所給食の献立作成の基本	
	9	子どもの発育、発達と食生活 2	24	（調理実習班ごとに）献立作成	
	10	〈離乳期、幼児期①〉	25	食育活動のための指導案作成の基本	
	11	〈幼児期②〉	26	クッキング保育用のカード作成	
	12	調理実習に向けて～衛生管理ほか	27	クッキング保育用のカード作成	
	13	調理実習①	28	食育だよりの原稿作成	
	14	〈大人ごはんと一緒に作る離乳食〉	29	総復習①	
	15	特別な配慮を要する食と栄養～	30	総復習②	
評価方法		受講態度、レポート、筆記試験の総合判定			
テキスト		『子どもの食と栄養』 監修 高内正子 保育出版社			
参考文献		日本人の食事摂取基準 2020 年版（厚生労働省）ほか			
留意事項					

※実務経験のある教員（栄養士、フードスペシャリスト資格、調理師／レストラン経営）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こども理解		演習	2	後期	田中 豊一
授業目標	こどもを理解する視点、こどもを理解する方法を学び、事例を分析的に解釈できる。 ビデオや文献の事例から、こども理解をもとに記録化、実態把握、課題の設定ができる。 こども理解を通じて同僚と議論ができる。				
授業概要	こども理解が必要とされる背景、こども理解のために必要な保育者視点、態度からスタートし、こどもを理解する視点、こどもを理解する方法について事例を通して学んだ後、事例分析を行う。 最後にこども理解にもとづいて指導計画を作成、修正し、その内容をグループワークで議論する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	「こども理解」とは～アセスメントについて			
	2	こどもに対する共感的理解とは			
	3	保育の質とアセスメントの重要性			
	4	アセスメントの手順と方法～観察する力			
	5	こどもを理解する視点～「発達」と「環境」			
	6	観察と記録のレッスン①			
	7	観察と記録のレッスン②			
	8	観察と記録のレッスン③			
	9	事例からみるこどもの観察・記録の実際			
	10	観察・記録からこども理解			
	11	こども理解にもとづく指導計画の作成			
	12	保育現場の実情から～こどもを理解する枠組みとシステム			
	13	保護者との関わりと連携			
	14	こども理解のための自己理解～対人援助職としての視点から			
	15	まとめと試験			
評価方法		試験並びに、出席時間数・授業時に作成し提出するコメントペーパーの内容、事例分析の提出、指導案の作成および議論への参加を総合して評価する。			
テキスト		・子ども理解を深める保育のアセスメント 汐見稔幸 中央法規 2023			
参考文献		・保育のためのエピソード記述入門 鯨岡峻 鯨岡和子 ミネルヴァ書房 2007 ・くしろせんもん学校 環境・教育研究センター研究紀要 第11号及び第12号			
留意事項		授業中にディスカッションを行うことがあるので、積極的に参加すること。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育基礎演習		演習	2	通年	森田有紀子 ・ 福士隆敏
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習に向けて園や施設の役割等について理解を深める。 ・ 見学や体験を通して自己課題を見つけ、目的を持って基本的な保育技術の習得や教材製作に取り組むことができる。 ・ 見学、実習生としての心構えやマナーを体得することができる。 				
授業概要	<p>保育を学ぼうとする意欲を高め、実習への動機付けを行う。また将来に向けて、自己を見つめ、不足している基本的な知識や技能等の課題発見とその解決への取り組みを行う。これらの目的に向けて幼稚園・保育園等への見学や行事参加を行い、基本的な心構えやマナー、幼児への関わりや保育者の技術を実践的に学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	ガイダンス、自己をみつめる①		16	地域の子ども行事
	2	見学、実習に向けての名札計画 作成		17	幼稚園実習報告会参加
	3	幼稚園見学に向けて		18	幼稚園・保育園見学に向けて
	4	幼稚園見学		19	幼稚園見学
	5	幼稚園見学振り返り 自己を見つめる②		20	保育園見学
	6	お礼状書き、お礼作り		21	幼稚園保育園見学振り返り・自己を見つめる④
	7	支援学校見学について		22	自己紹介教材計画・作成
	8	支援学校見学		23	自己紹介実践発表
	9	支援学校見学		24	保育園見学に向けて
	10	支援学校見学振り返り、お礼状書き、お礼作り		25	保育園見学
	11	お礼作り		26	保育園見学振り返り
	12	保育実習報告会参加		27	実習に向けて（紙芝居）
	13	模擬保育参加		28	実習に向けて（絵本）
	14	模擬保育参加		29	2年生保育実践演習の参加
	15	自己をみつめる③ 履修カルテ作成		30	自己をみつめる⑤、履修カルテ作成
評価方法		出席状況、提出物の内容、授業態度を総合的に評価			
テキスト		テキストは特にありません。プリントを適宜配布します。			
参考文献		保育所保育方針、幼児教育要領			
留意事項		場合によって礼状用便箋、教材作りのための用具を準備すること			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
乳児保育 I		講義	2	後期	竹谷 絢子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針改定で追加された3歳未満児の保育について保育の内容や運営体制に着目して学ぶ。 また、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等、乳児保育の現状と課題、乳児保育における連携について学ぶ。 1. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷			
	2	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況と課題			
	3	保育所における乳児保育の現状と課題			
	4	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）や家庭的保育における乳児保育の現状と課題			
	5	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育			
	6	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場			
	7	3歳未満児の生活と環境			
	8	3歳未満児の遊びと環境			
	9	3歳以上児の保育に移行する時期の保育			
	10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助や関わり、保育における配慮（1）			
	11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助や関わり、保育における配慮（2）			
	12	乳児保育における計画・記録・評価とその意義			
	13	乳児保育における連携と協働①（職員間や保護者）			
	14	乳児保育における連携と協働②（自治体や地域の関係機関等）			
	15	まとめ			
	16	期末試験			
評価方法		平常の受講態度・期末試験により総合的に評価する			
テキスト		中央法規「新・基本保育シリーズ⑩乳児保育Ⅰ・Ⅱ」監修 公益財団法人 児童育成協会			
参考文献		必要に応じて提示する			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
器楽演奏法Ⅰ		演習	2	通年	木下 太陽 川崎 晶子
授業目標	幼児期に音楽に接し親しむことは幼児の心身の発達・成長にとって重要である。 また、幼児が初めて出会う音楽教育を充実したものとするためには、保育者の確かなピアノ演奏の技術が不可欠である。 そのため本科目ではピアノ演奏技術の習得を目標とする。				
授業概要	担当教員ごとにクラスに分かれ、個人レッスンの形で授業を進めていく。 『大学ピアノ教本』及び『こどものうた 200』を中心に、学生の能力に応じて曲を選択する。 進度に応じて弾き歌いも行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション クラスに分かれて曲を選択する		16	前期同様テキストを使用してレッスンを進めていく
	2	前回選択した曲を1週間練習し、担当教員のレッスンを受ける		17	〃
	3	〃		18	〃
	4	〃		19	〃
	5	〃		20	〃
	6	〃		21	〃
	7	〃		22	〃
	8	〃		23	〃
	9	〃		24	〃
	10	〃		25	〃
	11	〃		26	〃
	12	〃		27	〃
	13	〃		28	〃
	14	〃		29	〃
	15	レッスン及び発表		30	レッスン及び発表
評価方法		実技試験、出席状況、課題へ取り組む姿勢を総合して評価する。			
テキスト		『大学ピアノ教本』（教育芸術社）、『こどものうた 200』（チャイルド本社）			
参考文献					
留意事項		ピアノを弾く上で支障が出ないよう、爪を短く切る。レッスン時には上靴を必ず着用する。 毎日少しずつでも良いので練習に取り組むこと。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こどもの遊びと文化 I		演習	2	前期	森田 有紀子・近藤 逸郎
授業目標	幼児の生活を取り巻く遊びや文化に関する知識や技術を総合的に習得して、保育に実践するための基本的な力を身に付ける。				
授業の概要	保育では子どもの遊びやおもちゃの基本的な知識に加え、発達に合わせて遊びを展開する力、児童文化財を保育に活用する力が必要である。これらをふまえ、身の回りにある廃材などで子どもが遊べるおもちゃの製作と展開、また、様々な遊びに触れる。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 子どもにとって遊びとは？			
	2	作って遊ぼう 1 風船ロケット			
	3	作って遊ぼう 2 プラトンボ			
	4	作って食べよう ベっこう飴			
	5	作って遊ぼう 3 紙コップ工作①			
	6	ペットボトルで野菜作り			
	7	作って遊ぼう 4 変身スライム			
	8	作って遊ぼう 5 傘袋飛行機			
	9	自然の中で草花遊び			
	10	作って遊ぼう 6 紙コップ工作②			
	11	見立て遊び			
	12	作って遊ぼう 7 人形遊び			
	13	児童文化財（人形劇）について			
	14	児童文化財実演に向けて			
	15	児童文化財の実演			
評価方法		レポートや振り返りシートなどの提出物及び出席状況や授業姿勢を総合的に評価			
テキスト		使用しない（授業内容に応じてその都度資料を作成し配布）			
参考文献		必要に応じて紹介			
留意事項		天候に左右される活動があるため、授業の入れ替わりや授業内容の変更等がある。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こどもの遊びと文化Ⅱ		演習	2	後期	森田 有紀子・近藤 逸郎
授業目標	<p>子どもの生活を取り巻く遊びや文化に関する知識や技術を総合的に習得し、おもちゃや児童文化財の楽しさとその重要性を知り、保育構想へ効果的に活用できる力をつける。</p> <p>グループでの共同制作に取り組む中でお互いの意見を尊重し合いながら協力し、自分以外の視点や多様性を学ぶことができる。</p>				
授業の概要	<p>一人ではできない大掛かりな児童文化財（人形劇）をグループで作し、実演することで児童文化財の楽しさや重要性を学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	ガイダンス・児童文化財の種類について		16	
	2	児童文化財（昔話や童話について）		17	
	3	人形劇 題材の選び方と方法		18	
	4	グループによる計画、構想		19	
	5	人形劇を作る		20	
	6	人形劇を作る		21	
	7	人形劇を作る		22	
	8	人形劇を作る		23	
	9	人形劇を作る		24	
	10	人形劇を作る		25	
	11	人形劇を作る		26	
	12	人形劇上演に向けて		27	
	13	人形劇上演に向けて		28	
	14	人形劇上演		29	
	15	人形劇上演、振り返り		30	
評価方法		グループ課題作品、出席、受講態度を総合的に判断			
テキスト		使用しない			
参考文献		必要に応じて提示する			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習 I A		実習	2	後期	諫山邦子・川崎晶子・田中豊一 福士隆敏・森田有紀子
授業の目標	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
授業の概要	・学校内での学びを基礎として、保育所の役割と機能の理解、子どもの理解、保育内容の理解及び専門職としての保育士の理解を目的として学外で実習する。 ・日々の課題を明確にしながら、観察実習、参加実習日誌への記録及び考察を行う。				
授業計画	1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 個々の子どもの状態に応じた援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に基づく保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康管理と安全対策の理解 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理				
評価方法	実習園からの評価（60%）、学校の評価（40%）				
テキスト	使用しない。				
参考文献	保育所保育指針解説				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習ⅠB		実習	2	後期	諫山邦子・川崎晶子・田中豊一 福士隆敏・森田有紀子
授業の目標	①児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②子ども・利用者との関わりや観察を通して子ども・利用者への理解を深める。 ③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者・利用者への支援について総合的に学ぶ。 ④保育の計画・観察・記録および自己評価について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
授業の概要	観察を通して、施設の役割と機能を実際に理解するとともに、子ども・利用者と生活を共にすることから、保育者の援助や関わりを理解し、その記録化を行う。また、現場の保育者の援助や関わり模倣することから、保育士の業務内容を理解し、対人援助職としての保育士の視点から子ども・利用者への理解を深める。職員間の役割分担や職業倫理についても学ぶ機会とする。				
授業計画	学習内容・テーマ				
	実習期間 11月10日(月)～22日(土) 【見学・参加実習】(実習1～2日頃) ・観察から理解し記録化する。 【参加実習】(実習半ば頃) ・実際のかかわりを通じての理解 【部分実習】(実習終わり頃) ・施設での仕事のエビデンスと職業倫理について		・施設の機能と役割 ・施設における子ども・利用者の生活と保育士の関わり ・子ども・利用者の観察とその記録 ・子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応 ・個々の状態に応じた援助や関りの実際 ・健康管理、安全対策の実際 ・保育士の業務内容 ・支援計画の理解と活用 ・職員間の役割分担、職業倫理について		
評価方法		・実習施設からの評価(60%)・学校の評価(40%)			
テキスト		使用しません			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習指導ⅠA		演習	1	通年	竹谷 絢子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習ⅠA（保育所等での実習）の意義・目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
授業の概要	実習の意義・目的、内容からスタートし、日誌の書き方を解説し、添削指導する。2年次の保育実習指導Ⅱ、幼稚園教育実習と適宜合同し、実習の流れ、内容、計画・実践をより実践に近い形で学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション～実習の意義、目的、内容、観察ポイント			
	2	実習の心構えと留意事項			
	3	実習日誌とは～目的を理解し、記入方法を学ぶ			
	4	実習日誌の書き方～エピソード記録について理解し、記入方法を学ぶ			
	5	実習日誌の書き方～具体的な事例を基に模擬記入			
	6	実習日誌の書き方			
	7	エピソード記録			
	8	実習施設調べ学習			
	9	実習における計画と実践（１）			
	10	実習における計画と実践（２）			
	11	実習要綱、実習の課題			
	12	自己紹介グッズ作成			
	13	実習の振り返り			
	14	実習の総括と自己課題の明確化			
	15	実習報告会			
評価方法		平常の受講態度、日誌、エピソード記録等提出物を総合的に判断して評価する。			
テキスト		小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社			
参考文献		必要に応じて提示する・保育所保育指針解説			
留意事項		実習したい保育所等を調べておくとい。			

※実務経験のある教員（保育士、幼稚園教諭二種、社会福祉主事任用資格、食育アドバイザー／託児所、保育園勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習指導ⅠB		演習	1	通年	田中 豊一
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな困難を抱えた子どもや利用者、そしてその家族を理解するとともに、対応する技術を身に付ける。日常生活の援助・支援を核として、利用する人たちの養護や適切な生活習慣を身につけることを基本としながら自立するための援助を行う。そのため、本講義では、その概要を理解するとともに、援助技術を身につけ、実習を自分の課題をもって取り組めるようにする。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回テーマを決めて、取り組む演習を通して、施設実習の目的と内容を理解するとともに、実習に行く施設の理解、利用児者の理解、保育士の支援など必要な知識・技術が身につけるとともに、実習に向かうための態度や記録、必要な書類について理解し円滑な実習が行えるようにする。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・なぜ施設実習があるか			
	2	施設実習の意義・流れ			
	3	施設の役割～障がい系			
	4	施設の役割～養護系			
	5	施設見学			
	6	障害児・者の世界			
	7	安全・衛生管理・危機管理			
	8	実習日誌①			
	9	実習日誌②			
	10	実習日誌③			
	11	実習課題・実習要綱・必要書類			
	12	マナー・心構え・守秘義務			
	13	振り返り①討議			
	14	振り返り②報告書作成、発表準備			
	15	発表			
評価方法		課題・提出物・発表内容			
テキスト		改訂版施設実習パーフェクトガイド わかば社			
参考文献					
留意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の実習評価の伝達と指導は課外に行います。自己評価票と日誌を持参して担当教員から指導を受けてください。実習は健康管理に十分留意し、報告・連絡・相談を徹底してください。 ・保育実習ⅠB（施設実習）は幼稚園・保育所実習と異なり、利用児者の生活する場にて行う実習ですから、特に利用児者の人権を尊重し、守秘義務を守ってください。 ・変則的に開講しますが、一回ごとにテーマが違います。欠席をしないようにしてください。 ・施設見学・ボランティアも取り組んでください。 ・書類の提出は期限を守ってください。 			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
英語コミュニケーション		演習	2	後期	カネフラー クリストファー Knoepfler, Christopher
授業目標	<p>(1) 身近な話題について簡単なやり取りや発表をすることができる。</p> <p>(2) 英語の発音・リズムの特徴を意識し、話したり、歌ったりすることができる。</p> <p>(3) 幼い児童に対して、簡単な英語活動ができる。</p>				
授業概要	<p>この授業は日常的な話題について話したり、発表したりする活動を通して、オーラルコミュニケーションスキルを図ります。及び英語活動の実践を通して、若い児童に対して英語活動を行う際に必要なスキルを図ります。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス・オリエンテーション			
	2	会話①：趣味について話そう			
	3	会話②：会話を続けよう			
	4	音楽①：好きな音楽を紹介しよう			
	5	音楽②：ポップソングを聞こう			
	6	音楽③：リズムと強弱を感じよう			
	7	音楽④：お気に入りアーティストの発表			
	8	子ども向け英語の歌①：ABCと数字の歌			
	9	子ども向け英語の歌②：かんたんな歌を歌おう			
	10	旅行①：レストランで使う英語			
	11	旅行②：おすそめを伝えよう			
	12	旅行③：観光ロールプレイ			
	13	子ども向け英語あそび①：絵本の読み聞かせ			
	14	子ども向け英語あそび②：聞いて動こう			
	15	子ども向け英語あそび③：ゲームであそぼう			
	16	期末試験			
評価方法		課題 (30%)、授業への参加 (20%)、ファイナルテスト (50%)			
テキスト		プリント等を配布します。			
参考文献					
留意事項		欠席した場合は、課題や次回の授業に必要な準備等を各自確認すること。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
情報技術		演習	2	前期	大坪 千草
授業目標	インターネットの普及により、会社はもちろん病院・学校・公共機関においてパソコン・タブレット・スマートフォン等との連携は必要不可欠なものとなり、同時に利用者のパソコンスキルもより高度なものが必要とされています。福祉の現場においても例外ではありません。本講義（演習）では、インターネット・各デバイス・Office アプリケーションについての基本的な知識・技術の習得を目的とします。更に、自己表現の学習と発表能力向上の為、PowerPoint を使用してのプレゼンテーションも行います。				
授業概要	①パソコンの基礎 ②インターネット（接続デバイス）・メール ③Word ④Excel ⑤PowerPoint				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	受講生のスキル（能力）を把握するアンケート。パソコンのガイダンス（入門的説明）			
	2	インターネットの仕組み・セキュリティの必要性・インターネットのルール			
	3	個人メールの作成と送受信、又は HP/SNS/BLOG の違いを理解する			
	4	Word（文書作成）の基礎 1（文字入力・文字装飾）			
	5	Word（文書作成）の基礎 2（行と段落・ファンクションキー・ショートカットキー）			
	6	Word（文書作成）の基礎 3（表作成・図の挿入）			
	7	Word（文書作成）の基礎 4（業務文書の作成）			
	8	Excel（表計算）の基礎 1（オートフィル・フィルタ・ソート）			
	9	Excel（表計算）の基礎 2（数式・関数）			
	10	Excel（表計算）の基礎 3（数式・関数・グラフ）			
	11	Excel（表計算）の基礎 4（業務出勤表の作成）			
	12	PowerPoint（プレゼンテーション）の基礎 1（各自のテーマ）			
	13	PowerPoint（プレゼンテーション）の作成（各自のテーマ）			
	14	PowerPoint（プレゼンテーション）の作成（各自のテーマ）			
	15	PowerPoint（プレゼンテーション）個人発表			
評価方法		受講態度・課題の提出・最終発表（PowerPoint）			
テキスト		テキストはこちらで作成。プリントを依頼します。			
参考文献					
留意事項		スタート時の個人のスキルの違いが大きい場合、各個人の上達具合を考慮する。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
体育講義		講義	1	前期	白川 和希
授業の目標	1. 体育やスポーツ、運動や遊びについての歴史や文化的背景を理解し、今後のあり方について理解する。 2. 身体運動やスポーツ活動が心身に及ぼす影響について学び、生涯にわたって健康を維持・増進するための方法を理解する。				
授業の概要	1. 身体の仕組みや運動による心身への影響および生涯にわたって運動やスポーツに親しむための方法について学習する。 2. 運動が心身に及ぼす影響やヒトにとっての必要性について人の成り立ちや科学的データを基に学習する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション、身体の仕組み	16		
	2	体育・スポーツ、運動・遊びの歴史と文化	17		
	3	運動と健康	18		
	4	運動と心身①身体	19		
	5	運動と心身②精神	20		
	6	運動と認知機能・非認知機能	21		
	7	子どもと運動	22		
	8	まとめ	23		
	9		24		
	10		25		
	11		26		
	12		27		
	13		28		
	14		29		
	15		30		
評価方法		授業での活動状況、レポート課題により総合的に評価する。			
テキスト		適宜、資料を配布する。			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
体育実技		実技	1	後期	白川 和希
授業の目標	1. 体育やスポーツ、運動や遊びの楽しさについて体験的に理解する。 2. 身体運動やスポーツ活動が心身に及ぼす影響を理解した上で、生涯にわたって健康を維持・増進するための方法を実践できる。				
授業の概要	身体仕組みや運動による心身への影響および生涯にわたって運動やスポーツに親しむための方法について体験・実践する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション、運動遊び	16	地域・季節のスポーツ②長ぐつアイスホッケー	
	2	ニュースポーツ①ドッジビー	17	実習	
	3	ニュースポーツ②ミニバレーボール	18	地域・季節のスポーツ③スケート	
	4	ニュースポーツ③ソフトバレーボール	19	実習	
	5	ニュースポーツ④キンボール	20	地域・季節のスポーツ④パークゴルフ	
	6	ニュースポーツ⑤アルティメット	21	実習	
	7	実習	22	まとめ	
	8	実習	23		
	9	子どもの体育と運動遊び①用具なし	24		
	10	子どもの体育と運動遊び②ボールを用いて	25		
	11	子どもの体育と運動遊び③フープを用いて	26		
	12	実習	27		
	13	実習	28		
	14	地域・季節のスポーツ①カーリング	29		
	15	実習	30		
評価方法		授業での活動状況、レポート課題により総合的に評価する。			
テキスト		適宜、資料を配布する。			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
日本国憲法		講義	2	後期	岩澤 哲
授業の目標	憲法や人権をめぐる問題を正しく理解し、自分の意見をもてるようになる。				
授業の概要	日本国憲法について、できるだけ親しみやすい話題をとりあげて概説します。子どもの「教育を受ける権利」など、子どもに関するテーマも広く扱う予定です。授業の後半では、憲法とのかかわりを意識しながら、私たちの日常生活にかかわる法制度について理解を深めていきます。				
授 業 計 画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	はじめに（授業の概要）		16	
	2	憲法とはどのような法か		17	
	3	憲法と私たちの関係（法の下の平等など）		18	
	4	憲法と私たちの関係（精神的自由など）		19	
	5	憲法と私たちの関係（経済的自由など）		20	
	6	憲法と私たちの関係（社会権など）		21	
	7	憲法と私たちの関係（国の統治の仕組み）		22	
	8	家族生活と法（親族関係）		23	
	9	家族生活と法（婚姻関係）		24	
	10	家族生活と法（親子関係）		25	
	11	家族生活と法（親権の問題）		26	
	12	家族生活と法（相続関係）		27	
	13	犯罪と法		28	
	14	紛争解決と法		29	
	15	まとめ		30	
評価方法		期末試験（70%）とリアクションペーパーなどの平常の成績（30%）により総合的に評価します。			
テキスト		講義教材（プリント）を配布します。			
参考文献		『保育者のための法学・憲法入門（第2版）』（成文堂、2023）			
留意事項		自分なりに考えながら講義を聴くことが大切です。			

こども環境科 2 年

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動		演習	2	通年	田中豊一・森田有紀子
授業の目標	・クラスの一員として自覚をもつとともに集団の構成員として役割、責任を果たす経験をする。 ・学校行事やクラス活動への取り組みを通じて集団行動、行事等を計画的に進める経験をする。 ・クラス活動に主体的に参加し、リーダーシップをとる経験をする。 ・将来のクラス運営や職場内における業務の推進に資する企画力、行動力を習得する。				
授業の概要	各種オリエンテーションからはじめ、委員長を中心に、計画を立て活動する。適宜ガイダンスを通して、本学の学生として必要な資質・能力を養う。年度末にはそれぞれの活動を振り返る。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	始業式クラス活動	16	学校祭準備	
	2	教務ガイダンス	17	学校祭学内発表	
	3	就職ガイダンス	18	学校祭学内発表	
	4	入学式	19	学校祭一般公開	
	5	性教育	20	学校祭一般公開	
	6	新入生歓迎会	21	学校祭一般公開	
	7	学生会総会・地域清掃	22	学校祭片付け	
	8	保育実習Ⅱに向けて	23	職場説明会	
	9	スポーツ大会に向けて	24	学生会総会・クリスマス会	
	10	スポーツ大会	25	クリスマス会	
	11	スポーツ大会	26	クラス活動	
	12	前期振り返り・履修カルテ記入・清掃	27	卒業に向けて	
	13	幼稚園実習に向けて	28	卒業式リハーサル	
	14	就職ガイダンス	29	卒業式	
	15	学校祭に向けて	30	卒業式	
評価方法		平常の受講態度で評価する。			
テキスト					
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会学		講義	2	前期	諫山 邦子
授業の目標	・現代社会の問題（少子高齢化、貧困、ジェンダー、不平等など）について関心を持ち、他の受講生に伝えることができる。 ・ジェンダーと社会（性別役割、フェミニズム、ジェンダー平等）、メディアと社会（SNS、マスメディアの影響、情報操作）など、現代社会の問題について日常の出来事の視点を絡めながら、考察する。 ・社会調査の基本技術を学び、実際に調査する。				
授業の概要	① 現代社会の構造や課題を考察し、身近な社会現象を題材に、批判的思考力を高める。 ② 人種、民族について概観し、アイヌ民族の歴史・文化・社会的課題について学ぶ。 ③ 社会調査について学び、グループでデータを取る、あるいは二次分析し、分析した結果を発表する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	社会学の目的と歴史、基本的な視点について知る。			
	2	メディアと社会			
	3	グローバル化と多文化共生、ジェンダーと社会			
	4	新聞等のマスメディア等から、グループでの調べ学習			
	5	グループ発表1、ディスカッション			
	6	グループ発表2、ディスカッション			
	7	人種・民族とは、アイヌ民族			
	8	アイヌ民族の歴史・文化～釧路市博物館見学			
	9	アイヌ民族の歴史・文化～白糠町ウレシパチセ・ポコロ			
	10	アイヌ民族の生活とアイヌ語～春採生活館			
	11	社会調査とは			
	12	社会調査～テーマ決定、統計データ調べ			
	13	社会調査準備			
	14	社会調査発表1			
15	社会調査発表2、まとめ				
評価方法	平常の受講態度 ・課題等の提出 ・プレゼンテーション等の課題提出等で総合的に評価				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布し対応				
参考文献	適宜紹介する。				
留意事項	グループで協力して課題に取り組む必要がある。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
健康論		演習	1	前期	諫山 邦子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出していくため、指導の基盤となる知識と技能を身につける。 ・幼児期における健康について、その特徴と指導方法についての理解を深める。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の定義と意義についての理解を深めると共に、幼児期にとっての健康について理解を深める。また、グループで健康と生活習慣とのかかわりなどのテーマを決め、データ取得と活用についての理解を深める。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション、授業の進め方			
	2	健康についての理解を深める			
	3	幼児期の発達的特徴について知る			
	4	幼児期の生活習慣の形成			
	5	幼児期の生活習慣の実際			
	6	幼児期のケガや事故の特徴			
	7	幼児期のケガや事故に対する処置			
	8	救命救急について			
	9	安全教育と危険時の対応			
	10	危険防止と環境の整備			
	11	幼児期における運動と運動能力の発達			
	12	幼児の運動能力の測定について			
	13	日常における運動の大切さ			
	14	遊びとしての運動			
	15	まとめと発表			
評価方法		・平常の受講態度・課題等の提出・プレゼンテーション等の課題提出等で総合的に評価			
テキスト		必要に応じてプリント等を配布し対応			
参考文献		幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法（健康）		演習	2	後期	川嶋 厚子
授業の目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容を具体的に構想する方法を身に付ける。 領域「健康」のねらい及び内容、指導上の留意点、評価の考え方を理解する。				
授業の概要	幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。 特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育の基本と領域「健康」			
	2	子どもの健康をとらえる視点と健康を支える環境構成と援助			
	3	乳幼児期の体の発達と健康を支える援助			
	4	生活リズムと生活習慣に関わる保育方法（計画立案と模擬保育）			
	5	乳幼児期の食生活を支える環境と援助			
	6	健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助			
	7	健康指導、安全指導を中心とした保育の構想と教材研究			
	8	幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導（模擬保育）			
	9	健康指導、安全指導の模擬保育の振り返り—保育の評価と改善			
	10	乳幼児期の運動発達と運動遊びにかかわる指導計画と教材研究			
	11	子どもの意欲を育む運動指導（模擬保育）			
	12	運動指導の模擬保育の振り返り—保育の評価と改善			
	13	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助—（特別な支援を要する子を含む）			
	14	領域「健康」に関わる経験と小学校の教科とのつながり			
	15	領域「健康」にまつわる現代課題を踏まえた健康な心と体を育む活動			
	16	定期試験			
評価方法		試験 50%、指導案 30%、授業態度 20%			
テキスト		授業時に資料配布			
参考文献		保育内容「健康」 ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法（人間関係）		演習	2	前期	久納 里香
授業目標	将来保育者として共主体保育を実践・展開するために領域「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、具体的指導場面をイメージし保育実践への意欲を高める。				
授業概要	領域「人間関係」のねらい、内容を踏まえた指導法のあり方を学習する。並行して共主体・非認知能力を育てる保育を行う視点を養い、総合的な保育を行なえるよう実践的に学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	現代社会と幼児の人間関係			
	2	子どもの発達からみる 10 の姿を育てる保育			
	3	子どもの発達からみる 10 の姿を育てる保育実践			
	4	子どもの発達からみる 10 の姿を育てる保育実践			
	5	グループワーク			
	6	乳児期から幼児期前期・幼児期後期の子どもの人間関係の発達			
	7	子どもの思考・探求活動を具体的に記録し活動を振り返り次の活動へ生かす保育実践			
	8	子どもの思考・探求活動を具体的に記録し活動を振り返り次の活動へ生かす保育実践			
	9	グループワーク			
	10	子どもの主体性を尊重する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて			
	11	子どもの主体性を尊重する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて			
	12	グループワーク			
	13	「指示する保育」から「きく保育」の保育実践			
	14	「指示する保育」から「きく保育」の保育実践			
	15	まとめ：小学校との接続			
評価方法		受講態度、レポート、コミュニケーション能力により総合的に評価する			
テキスト		保育内容人間関係「子どもの人との関わりと保育実践を学ぶ」戴中征代・近内愛子・玉瀬友美 編著 萌文書林			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法（表現）		演習	2	前期	横川 牧子
授業の目標	・ 幼児の表現の意義を知り、表現活動を楽しめるようになる。 ・ わらべうたを通して身に付く “力” を知り、うたや遊びの中でねらいを意識できるようになる。 ・ 表現者としての “自分を知り” “自分らしい” 表現方法に気づき、活動・実践に繋げることができるようになる。				
授業の概要	・ 表現者として目的（色々な対象、状況、場面を想定）に見合った姿勢や向き合い方、声の出し方や表情、仕草や動作を実践し、振り返りを行うことで工夫・研究するきっかけを作っていく。 ・ 生活や行事、自然に関係するうたやトナエ言葉などを計画的に学び活動する。尚、それに関わる小物・小道具をつくり、実践に結び付ける。特に導入として実践に結びつくよう機会を多くもつ。 ・ 教科書や資料の使い方を知り、自ら用いて活動できるきっかけとする。 ・ 実習・発表などの実践を通し、①計画・立案 ②報告・発表 ③記録・評価する機会を持つ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		備考	
	1	乳幼児の発達からみる表現活動			
	2	保育所・幼稚園における表現活動の事例検討		DVD使用	
	3	ブラブラ人形を作る			
	4	ブラブラ人形を演じる			
	5	指人形を使った保育の展開		指遊びと手遊びとの比較	
	6	領域「表現」からみたわらべうた遊び			
	7	わらべうた遊びの導入と終結			
	8	わらべうた遊び①「あんたがたどこさ」			
	9	わらべうた遊び②「なべなべ」			
	10	わらべうた遊び③「あぶくたった」			
	11	わらべうた遊びの指導案作成			
	12	模擬保育～わらべうた遊び		幼稚園実践見学	
	13	模擬保育～振り返り			
	14	表現活動から図画工作・音楽・体育へ		リズム運動・体育館	
	15	幼児の表現活動を育むために			
	期末試験		14 講の後にいきい 15 でまとめとする		
評価方法		出席状況、授業態度（実技含む）、課題・レポート提出、実技内容、筆記試験など総合的に評価する			
テキスト		わらべうたと子どもの育ち 木村はるみ著 エイデル研究所			
参考文献		適時 ・ 資料を作成 ・ 幼稚園教育要領解説 ・ 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説			
留意事項		・ 現場の状況をイメージし、何の目的で行っているかを意識して授業を進める。 ・ 制作に関わる道具、材料はその都度個別に用意する。 ・ 教室の設定は、机上と室内に空間を作り実践する形式をとる。 ・ リズム運動は運動場にて裸足、動きやすい服装で行う。（ピアノ使用～伴奏者に学生を複数募る）			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教職概論		講義	2	後期	近藤 逸郎
授業の目標	「教師とは・教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容等について理解し、教職への意欲を高めるとともに、学び続ける姿勢と目指す教師像の確立を図る。				
授業の概要	保護者や子どもたちが求めている教師の姿、その期待に応えるために、教育現場における課題と対応の実際、確かな子ども理解、自身の力量向上など、「目指す教師像」に迫っていくための授業を提供したい。				
回	学習内容・テーマ				
1	オリエンテーション 教職の意義（目指す教師像①）				
2	子どもの見方と確かな子ども理解				
3	幼稚園・保育園と小学校の連携				
4	家庭・地域との連携Ⅰ（保護者対応）				
5	職場組織の在り方（チーム学校）				
6	教師に求められる資質・能力				
7	教育の危機管理				
8	教育現場の課題から				
9	家庭・地域との連携Ⅱ（地域を知る）				
10	家庭・地域との連携Ⅱ（地域に学ぶ①）				
11	家庭・地域との連携Ⅱ（地域に学ぶ②）				
12	教師の力量形成と研修（学び続ける姿勢）				
13	教員の身分と服務				
14	今、教師に求められていること				
15	振り返りとまとめ（目指したい教師像②）				
評価方法	レポートや振り返りシートなどの提出物及び出席状況や授業姿勢を総合的に評価				
テキスト	授業内容に応じてその都度資料を作成し配布				
参考文献	「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」 佐藤晴雄「教職概論」学陽書房 岩瀬直樹・寺中祥吾「先生をつくり方」旬報社				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育社会学		講義	2	後期	福岡 真理子
授業の目標	現代の学校教育に関する社会的事項に対する基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題や教育政策を理解するとともに、学校と地域の連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。適宜、学習内容と関連させて、諸外国の教育事情や教育改革の動向を学ぶ。				
授業の概要	学校からスタートし、「問題行動」とされるいじめ、不登校を解説するとともに、現代の社会にとって欠かせない男女共同参画社会、子どもの貧困、グローバル社会、地域の学校としてコミュニティ・スクールを扱う。学校安全への対応では、防災センターで火災、地震を体験するとともに、避難マップを作成する。最後に、教師の社会的状況を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	学校とは何か			
	2	いじめとは～いじめの萌芽としての幼稚園等での仲間外れ			
	3	不登校の変遷、要因～不登校の低年齢化を踏まえて			
	4	学校の「問題行動」への対応			
	5	学校の安全管理			
	6	防災センター体験			
	7	防災マップ作成			
	8	男女共同参画社会と教育～女子教育の歴史から			
	9	男女共同参画社会と教育～隠れたカリキュラムの視点から			
	10	L G B T Q + と教育			
	11	子どもの貧困と教育			
	12	子どもの貧困と教育支援			
	13	グローバル社会のなかの学校			
	14	コミュニティ・スクール			
	15	教師の社会学			
評価方法		期末レポート 50%、小レポート 40%、平常の発言・発表 10%			
テキスト		使用しない			
参考文献		幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育心理学		講義	2	前期	福岡 真理子
授業の目標	1. 子どもの発達を理解し、保育現場での教育や保育の効果を高めるために発達心理学の知識をもとに、より集団保育に注目した知識、技能を身に着ける。 2. 保育現場で起こりうる問題や課題に、現場に即した内容で心理学的知見を持てるようアクティブラーニングを体験しながら追及する。				
授業の概要	1. 子どもの育ちや学びを理解する（発達障害を含む） 2. やる気を引き出しながら学ばせる教育方法を理解する 3. 子どもの能力や個性・特性の理解と評価方法を理解する 4. クラス運営に生かす心理的塩点について理解する 5. 教育的問題を把握し、家庭への教育的支援や幼・保・小連携を学ぶ				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	ガイダンス：教育心理学とは	16	試験	
	2	1 章 保育と教育心理学	17		
	3	2 章 子どもの発達（1）	18		
	4	3 章 子どもの発達（2）	19		
	5	4 章 学習行動の基礎	20		
	6	10 章 保育の中で生かす教育心理学	21		
	7	5 章 学びの動機付け	22		
	8	8 章 教育・保育における評価	23		
	9	13 章 子どもをめぐる教育的問題	24		
	10	9 章 発達障害のある子どもの教育・保育	25		
	11	6 章 知的能力の発達	26		
	12	7 章 パーソナリティーの発達	27		
	13	12 章 家庭ぐるみの教育的支援	28		
	14	11 章 就学に向けて（幼・保・小連携）	29		
	15	まとめ 「子どものイヤイヤ」発表	30		
評価方法		提出物30%（毎時間）、試験70%			
テキスト		保育に生かす教育心理学 （株）みらい 「子どものイヤイヤ」（実務教育出版）・・昨年も使用			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
幼児教育課程総論		講義	2	前期	川嶋 厚子
授業の目標	幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程、保育所、幼保連携型認定こども園において作成する全体的な計画の意義、編成・作成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。				
授業の概要	保育の基本からみた教育課程、全体的な計画の意義、教育課程にかかる法制度や編成・作成の方法、幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷を理解し、指導計画を作成、実践、振り返る。カリキュラム・マネジメントを行う意義を知り、評価の方法や教育課程、全体的な計画の改善例を学ぶとともに、幼稚園等と小学校との接続カリキュラムを検討する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育の基本からみた教育課程・全体的な計画			
	2	教育課程の編成方法、全体的な計画の作成方法			
	3	保育におけるカリキュラムの考え方			
	4	「教育課程」「全体的な計画」から指導計画へ			
	5	指導計画の実際、作成方法			
	6	指導計画の作成			
	7	指導計画の実践準備			
	8	指導計画の実践			
	9	指導計画の実践、振り返り			
	10	戦前の幼稚園の保育内容			
	11	幼稚園教育要領の変遷と内容			
	12	カリキュラム・マネジメント			
	13	幼児理解に基づいた評価			
	14	幼児教育と小学校教育との接続			
	15	まとめ			
評価方法		小テスト 30%、指導計画・実践・振り返り 70%			
テキスト		なし（その都度資料配布）			
参考文献		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説 神長美津子他『乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論』光生館 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
地域福祉論		講義	2	後期	諫山 邦子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の意義を自分の言葉で説明することができる。 ・地域福祉・児童福祉の現状と課題を理解する。 ・地域に関心を持ち、福祉コミュニティを構想し発表する。 				
授業の概要	<p>地域、コミュニティとは何かからスタートし、行政やその他現場から地域福祉の意義・目的、現状と課題を解説していただく。また、地域福祉への参加者として、子ども食堂にボランティアとして参加する。学び、体験を踏まえ、地域住民として、福祉コミュニティを構想し、発表する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	地域、コミュニティとは			
	2	地域福祉の意義・目的			
	3	釧路市こども支援課			
	4	地域で育つ～親子の広場昭和			
	5	地域で見守る～民生委員			
	6	社会福祉協議会の動き			
	7	地域における障害者福祉の現状と課題			
	8	子ども食堂～事前学習			
	9	子ども食堂			
	10	子ども食堂			
	11	子ども食堂			
	12	子ども食堂			
	13	福祉コミュニティ構想			
	14	福祉コミュニティ構想			
	15	まとめ			
評価方法		平常の受講態度、現場体験レポート、学習小レポート、福祉コミュニティ発表を総合的に評価する。			
テキスト		使用しない			
参考文献					
留意事項		主体的な受講態度が求められる			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子ども家庭支援論		講義	2	前期	山下 晶子
授業の目標	1. 子育て家庭に対する保育士の相談等の支援の意義や役割、子ども家庭支援の基本について理解する。 2. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 3. 子育て家庭のニーズに応じた支援と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
授業の概要	子ども家庭の多様なリアリティを通して子ども家庭支援のニーズを捉え、保育士による子ども家庭支援の基本、子育て家庭に対する支援体制を学ぶ。最後に、事例をもとに多様な支援の展開と関係機関との連携を扱う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	子ども家庭支援のニーズ（1）			
	2	子ども家庭支援のニーズ（2）			
	3	家族の変化から見る女性の孤立と貧困			
	4	家族の養育機能			
	5	男女共同参画社会と家庭における平等			
	6	子ども家庭支援の目的と機能			
	7	子どもと家庭を支援するための制度			
	8	子どもと家庭を支援するためのサービス			
	9	子ども虐待と子ども家庭支援			
	10	保育所による子ども家庭支援			
	11	地域の子育て家庭への支援			
	12	地域の社会資源の活用と関係機関等との連携・協力			
	13	障害のある子どもの家庭支援			
	14	精神障害のある保護者と子どもの支援			
	15	まとめ			
	16	期末試験			
評価方法		平常の受講態度、課題レポート、期末試験等総合評価する			
テキスト		ひと目でわかる「保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック」2025 中央法規出版			
参考文献		保育所保育指針解説			
留意事項		子ども家庭福祉、子育て支援の学習事項と関連させながら学習すること。			

※実務経験のある教員（幼稚園教諭二種、保育士／公立保育園勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子ども家庭支援の心理学		講義	2	後期	福岡 真理子
授業の目標	1. 生涯発達に関する既習の知識を強化し、初期経験の重要性や発達課題などについての理解を深める。 2. 家族・家庭の意義と機能を理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を得る。 3. 子育て家庭を取り巻く現代の社会的状況と課題について理解をする。 4. 子育て家庭へのこころの支援にあたる知識と技能を習得する。				
授業の概要	今日の子どもと家庭をめぐる状況に対し、多様な家庭の形があることを理解し、それぞれに対する子育て家庭支援の内容を理解し強化する。自分ならどうするかの視点を持ち、実践する技能を培う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス：生涯発達と家庭支援			
	2	1章 人間の発達過程			
	3	2章 家族・家庭の理解～意義と機能			
	4	2章 親子関係・家族関係の多様性			
	5	3章 子育てを取り巻く社会的状況			
	6	3章 ライフコースと仕事・子育て			
	7	3章 多様な家庭とその理解			
	8	4章 特別なニーズへの支援			
	9	4章 DV とひとり親家庭			
	10	4章 ステップファミリーと里親家庭			
	11	5章 子どもの精神保健とその課題			
	12	5章 幼児期・児童期の精神保健			
	13	5章 青年期・災害時の精神保健			
	14	5章 児童虐待と発達障害			
	15	まとめ 家庭支援について			
	16	試験			
評価方法		提出物 30%（毎時間）、試験 70%			
テキスト		「子ども家庭支援の心理学」 ななみ書房			
参考文献		「子どものイヤイヤ」（実務教育出版）			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育方法学		演習	2	後期	倉賀野 志郎
授業の目標	教育の方法及び技術（情報機器及び活用を含む）では、これからの社会を担うこどもたちに求められる基礎的な資質・能力を育成するために必要な、幼児教育段階からの教育の方法・技術、情報機器の操作及び活用に関する基礎的な知識、技能を身につける。これらを実践的に学ぶことを目標とする。				
授業の概要	幼児期に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。とりわけ次の点に着目する。１）基礎的な理論と実践の背景。２）“応答的”な教育方法を主体的・対話的で深い学びの実現。３）幼児・教材など指導・保育を構成する基礎的な要件。４）幼児の育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	《幼稚園教育要領》の基礎的な考え方：子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解するために『環境』という視点を学ぶ。			
	2	目標に適した指導法を理解し身に付けるため、働きかけに応じての『環境』に着目して、身近なことに目をつけて幼児の学びの世界の広がりを考える。			
	3	「普通」とは異なる「境界」・まちがい等の考えに基づいて目標、内容、教材、教具、指導・保育展開、学習形態、評価等の視点を含めた学習指導案づくりの全体枠(2			
	4	5 領域や10 項目の各々に即しての課題等を扱い、自分との向かい合いからの履歴と蓄積を踏まえて発達について学ぶ。			
	5	教育方法の基礎的な理論と実践を理解するために、とりわけ食べ物の好き嫌いなどの身近な『環境』から、3 歳児を転換点として未満児・以上児を考える。			
	6	幼児との対応において、非言語コミュニケーションや視線に着目して対話的で深い学びの実現等を理解するために、話法などの基礎的な技術を身につける。			
	7	あそびの道具等に着目して、幼児の体験との関連を考察しながら教材等を作成・提示して学習指導案を作成。			
	8	幼児の興味・関心を高めるために、感性・感覚・体験との関連を考慮しながら絵本等の活用を学ぶ。			
	9	教材などの指導・保育を構成する基礎的な要件を理解するため、教材の作成に向けて指導・保育展開を、既存の指導案等を参考にして学ぶ。			
	10	《季節》や《身近な動植物》に着目して指導・保育展開を実践的に学ぶ。とりわけ植物のタネに着目する。			
	11	身の回りの素材・基礎的な要件を理解するため作成指導案等を検討・討議			
	12	集団でのものづくり基礎的な要件を理解するため作成指導案等を検討・討議			
	13	幼児の興味・関心を高めたり課題・学習内容をまとめさせるために、情報機器を活用して、例えば伝統的な行事に着目して効果的な教材等を作成・提示。			
	14	情報機器を活用した指導での適切な教材の作成・活用を身につけ表現する。また情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解。			
	15	教育方法の全体のまとめ			
	16	レポート			
評価方法		テスト、出席、小レポート等を総合的に評価する。			
テキスト					
参考文献		くしろせんもん学校“幼児教育と『こども環境』：豊かな発達と保育の環境”（明石書店）、プリントも適宜配布する			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育相談・育児相談		演習	2	後期	田仲 京子
授業の目標	(1) 子育てに活かす教育相談についての理論と実践の基本を学ぶ。 (2) 保護者及び子育てにかかわる人々の役割を理解し、教育相談による具体的ななかかわりを学ぶ。 (3) 子育て支援の在り方、資源の活用、連携における教育相談の機能を学び、現場で活用できるようにする。				
授業の概要	子どもの特徴やニーズと発達理解のための理論と方法を学習する。教育相談の理論・技法の学習では体験を重視し、体験したことを振り返ることで個々の学生が自らのコミュニケーションの特徴に気づき、教育相談に生かせることを目指す。また、保育・教育現場で生じやすい事例について、ロールプレイやディスカッションを用いて学習する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	現代社会と子育て、子育て			
	2	「親」になること			
	3	支援としての保育・教育相談			
	4	相談支援の場と環境システム			
	5	相談支援の基盤としての保育と保護者の関係			
	6	信頼関係を基盤とした支援のために			
	7	相談支援の基礎			
	8	相談支援の基本技法としてのカウンセリング			
	9	保育における相談支援			
	10	保護者理解			
	11	地域子育て支援における相談支援			
	12	0・1・2歳児の相談と支援の実際			
	13	3・4・5歳児の相談と支援の実際			
	14	特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援			
	15	まとめ			
評価方法		レポート、提出物、授業への取り組み状況などを総合的に評価します。			
テキスト		大田光弘著「保育・教育相談支援」建帛社			
参考文献		必要に応じて提示する。			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子どもの健康と安全		演習	1	前期	長谷 由香
授業の目標	1. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える 2. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ 3. 災害時・救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ 4. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する				
授業の概要	保育のおかれている現状に興味・関心を寄せ、広い視野でこどもの健康な発育・発達について理解を深めていってほしいと思います。講義・演習では、保育の現場で起こりうる、具体的な状況設定を行い、具体的な対処法を学び、知識に裏付けて身につけることを目指します。 また、社会の現状を理解することに興味・関心を持って学び、保育現場でリーダーシップを発揮するため、多職種連携のチームの一員として役割を発揮できるよう、保育の専門職としての自覚を育てることを目指して授業を展開します。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション。保健活動の意義と目的			
	2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 1：子どもの生活習慣、援助技術			
	3	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2（沐浴演習）			
	4	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 3：乳児への対応			
	5	保育における健康安全管理の実践 1：事故の特徴や安全管理			
	6	保育における健康安全管理の実践 2：食事時の安全管理			
	7	保育における健康安全管理の実践 3：災害の備えと危機管理			
	8	子どもの体調不良等に対する適切な対応 1：一般的な症状への対応			
	9	子どもの体調不良等に対する適切な対応 2：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応			
	10	子どもの体調不良等に対する適切な対応 3：子どもへの看護と救急処置			
	11	子どもの体調不良等に対する適切な対応 4：救急蘇生法（演習）			
	12	感染症の予防と対策			
	13	障害を持つ子どもへの適切な対応			
	14	心とからだの健康づくりと地域保健活動			
	15	まとめ・レポート課題の説明			
評価方法		レポート課題（50％）、講義後振り返りレポート（25％）、演習・グループワークへの参加状況（25％）			
テキスト		「子どもの保健ハンドブック（萌文書林）」			
参考文献					
留意事項		実習時期に合わせ、講義内容を入れ替えることがあります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
乳児保育Ⅱ		演習	1	前期	竹谷 絢子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の実際と保育者の職能について理解する。 ・3歳未満児の保育の内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。 ・指導計画に必要な基礎知識を習得し、実際に指導案を作成することができる。 ・乳児保育を支える「連携」の重要性を理解する。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児の発達に即した保育の様々な実感を体感することによって、乳児保育を知る。 ・乳児保育におけるあそびや環境について計画及び実践を行う。 ・具体的な課題についてグループ討議や個人の実践を行う。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	乳児保育の基本と乳児の特徴・個々に応じた受動的・応答的な関わり			
	2	0歳児の生活の流れとあそびを支える環境構成、援助の実際			
	3	1歳児の生活の流れとあそびを支える環境構成、援助の実際			
	4	2歳児の生活の流れとあそびを支える環境構成、援助の実際			
	5	各年齢別のあそびとおもちゃーあそびの設定とは？ー			
	6	0・1・2歳児の具体的なあそびやおもちゃづくり体験			
	7	0・1・2歳児の指導案作成			
	8	あそびの実践（個人プレゼンテーション）			
	9	乳児保育における安全管理と事故予防			
	10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮			
	11	集団保育における個々への援助や配慮、「連携」の重要性			
	12	環境の変化や移行に対する配慮			
	13	長期指導計画と短期的な指導計画の実際			
	14	個別的な指導計画と集団の指導計画の実際			
	15	まとめ			
	16	期末試験			
評価方法		平常の受講態度・期末試験により総合的に評価する			
テキスト		中央法規「新・基本保育シリーズ⑩乳児保育Ⅰ・Ⅱ」監修 公益財団法人 児童育成協会			
参考文献		必要に応じて提示する			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子育て支援		演習	2	前期	田仲 京子
授業の目標	<p>1. 子育て家庭に対して、保育士の行う相談などの支援の展開について具体的に理解する。</p> <p>2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する。</p>				
授業の概要	<p>子育て支援について、その基本となる理論と方法及び心構えを学ぶ。また、子どもや支援を必要とする過程を理解するために必要な技術を学ぶ。</p> <p>相談事例の検討を通して、実践的に学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	子どもの保育とともに行う保護者の支援			
	2	日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成			
	3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解			
	4	子ども及び保護者の状況・状態の把握			
	5	支援の計画と環境の構成			
	6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス			
	7	職員間の連携・協働			
	8	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働			
	9	保育所等における支援			
	10	地域の子育て家庭に対する支援			
	11	障害のある子ども及び家庭に対する支援			
	12	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援			
	13	子ども虐待の予防と対応			
	14	要保護児童等の家庭に対する支援			
	15	多様なニーズを抱える子育て支援家庭の理解。まとめ			
評価方法		レポート、提出物、授業への取り組み状況などを総合的に評価します。			
テキスト		「子育て支援」 中央法規			
参考文献		必要に応じて提示する			
留意事項					

※実務経験のある教員（幼稚園教諭、保育士、社会福祉主事、介護福祉士／保育園勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会的養護Ⅱ		演習	1	後期	豊島 節子
授業の目標	<p>「社会的養護Ⅰ」で学習した社会的養護の理念や制度を踏まえ、社会的養護方法（実践）など基本的な内容について理解し、さらに事例などの演習によって理解を深めていく。子どもが権利の主体者であることを踏まえ、家庭への養育支援から代替養育までの社会的養護の充実、さらに家庭養育優先の理念とそのためのパーマネンシー保障や里親による養育の推進など、改正児童福祉法（2016年）の理念の具体化となる方策についても理解する。</p>				
授業の概要	<p>基本的にはテキストに沿って進める。 保育者として必ず押さえておきたい基本的な事項や特に重要な内容をベースに、演習課題にも取り組み実践に役立つ知識や考える力を養う。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 子どもの権利擁護			
	2	社会的養護における子どもの理解			
	3	社会的養護の内容① 日常生活支援			
	4	〃 ② 心理的支援			
	5	〃 ③ 自立支援			
	6	施設養護の生活特性および実際①			
	7	〃 ②			
	8	家庭養護の生活特性および実際			
	9	アセスメントと個別支援計画の作成			
	10	記録および自己評価（ケースカンファレンス）			
	11	社会的養護における保育の専門性			
	12	社会的養護にかかわる相談援助			
	13	社会的養護におけるソーシャルワーク			
	14	社会的養護における家庭支援			
	15	今後の社会的養護の課題と展望			
評価方法		受講態度・姿勢、レポート等総合的に評価			
テキスト		中央法規 新基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ			
参考文献					
留意事項					

※実務経験のある教員（社会福祉主事任用資格／障害児者支援施設勤務経験、児童養護施設勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の理解と方法 I		演習	2	前期	川崎 晶子
授業の目標	1. 音楽の知識や歌唱・楽器演奏の能力を一層伸ばし、保育現場で活用できる技術を身につけて、子どもの生活と遊びを豊かにすることを学ぶ。 2. 音楽の楽しさを自らが実感すると共に、子どもの心身の発達に応じた音楽表現活動を学ぶ。				
授業の概要	1. 表現活動を通じて子どもの表現力を伸ばし、子どもの発達にふさわしい表現活動を実践出来る。 2. 身近な素材を使った手作り楽器を用いた遊びを工夫し、音楽的感性を養う。 3. 授業で学んだことを生かし、実習に向けての準備を進める。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 1年の復習			
	2	音楽基礎知識の学習（楽典）			
	3	音程について			
	4	音程について			
	5	音楽遊び			
	6	言葉とリズム			
	7	実習準備（手遊び、音楽遊び）			
	8	器楽アンサンブル			
	9	移調、転調について			
	10	手作り楽器			
	11	手作り楽器の作成			
	12	音楽基礎知識の学習（楽典）			
	13	コードネーム、コード奏法、簡易伴奏			
	14	年齢に合わせた音楽遊び			
	15	まとめ・テスト			
評価方法		学習内容の理解、授業への取り組み及び出席状況・受講態度等により総合的に評価する。			
テキスト		幼稚園教諭・保育士養成課程「子どものための音楽表現技術」―感性と実践力豊かな保育者へ―株式会社萌文書林 こどものうた 200 チャイルド本社			
参考文献		必要に応じて紹介する。			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の理解と方法Ⅱ		演習	2	前期	福士 隆敏
授業の目標	図画工作で紹介できなかった、いろいろな造形表現を紹介し、各画材についての理解を深めます。また大勢の子どもと一緒に楽しめる造形活動やおもちゃ制作の体験、共同制作の持つ意味や楽しさに触れ、実施する際のさまざまな留意点について学びます。 描画の発達段階についての理解を深め、こどもの絵の特徴とその見方、そしてその指導のあり方について理解を深めます。				
授業の概要	共同制作や造形遊びなど様々な造形活動を通して、その楽しさとこどもの関わりを考えます。また、課題作品の制作を通して自己の表現について深めるとともに、展示し鑑賞してもらうための仕上げや装丁についても考えます。完成した課題作品の提出をもって、評価とします。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	ガイダンス（授業の流れや用具の確認）		16	
	2	パペット（手踊り人形） 1		17	
	3	パペット（手踊り人形） 2		18	
	4	パペット（手踊り人形） 3		19	
	5	マーブリング		20	
	6	ピクトグラム 1		21	
	7	ピクトグラム 2		22	
	8	ピクトグラム 3		23	
	9	実習の思い出		24	
	10	弁当貼絵 1		25	
	11	弁当貼絵 2		26	
	12	ポーリングアート スチレン板 1		27	
	13	ポーリングアート キャンバス 2		28	
	14	厚紙工作 1		29	
	15	厚紙工作 2		30	
評価方法		出席状況・提出された小作品・課題作品・受講態度で総合的に評価します。			
テキスト		必要な場合、その都度プリント等を配布します。			
参考文献					
留意事項		・汚れてもいい服装で、必要な道具を持参して受講してください。 ・小作品やプリントをファイルやスケッチブックに綴じてもらいます。 ・内容や順番が変更になる場合もあります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
器楽演奏法Ⅱ		演習	2	通年	浅利 美穂 川崎 晶子
授業目標	前年度学んだピアノの演奏技術をさらに発展させながら、弾き歌いを修得し、より高度な音楽表現技術の定着を目標とする。				
授業概要	『大学ピアノ教本』及び『こどものうた 200』を中心に、各自のレベルに応じたピアノ曲の演奏にも取り組む。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	担当教員ごとにクラスに分かれ、各自の段階・能力に応じたレッスンをを行う。	16	弾き歌いのレパートリーを増やし、ピアノ曲も積極的に学ぶ。	
	2	〃	17	〃	
	3	〃	18	〃	
	4	〃	19	〃	
	5	〃	20	〃	
	6	〃	21	〃	
	7	〃	22	〃	
	8	〃	23	〃	
	9	〃	24	〃	
	10	〃	25	〃	
	11	〃	26	〃	
	12	〃	27	〃	
	13	〃	28	〃	
	14	〃	29	〃	
	15	レッスン及び発表	30	レッスン及び発表	
評価方法		実技試験、出席状況、課題へ取り組む姿勢を総合して評価する。			
テキスト		『大学ピアノ教本』（教育芸術社）、『こどものうた 200』（チャイルド本社）			
参考文献					
留意事項		ピアノを弾く上で支障が出ないよう、爪を短く切る。レッスン時には上靴を必ず着用する。毎日少しずつでも良いので練習に取り組むこと。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
児童文化論		講義	2	後期	森田 有紀子
授業の目標	・子どもの豊かな感性と想像する楽しさを広げるために有効な児童文化財について学び、実践に生かすことができる。 ・子どもが児童文化に親しむ環境を構築するための知識や技能を身につけ、保育構想に繋ぐことができる。				
授業の概要	・昔話や童話、様々な種類の絵本など多くの児童文学に関する知識を深め、子どもが絵本や物語に親しめるように保育生活の中で身近に活用するための方法を考える。 ・昔から受け継がれる子どもの文化に触れ、実際に体験することで、子どもの文化をより豊かにするための技術を学ぶ。				
授業計画		学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション：児童文化とは	16	期末試験	
	2	児童文化の歴史	17		
	3	子どもの生活	18		
	4	子どもの環境の変化	19		
	5	子どもの遊び	20		
	6	子どものための施設と活動	21		
	7	日本と世界の昔話	22		
	8	日本と世界の昔話、児童文学	23		
	9	シアターとは	24		
	10	お話を演じる児童文化財①	25		
	11	お話を演じる児童文化財②	26		
	12	お話を演じる児童文化財③	27		
	13	絵本から発展する遊びや製作①	28		
	14	絵本から発展する遊びや製作②	29		
	15	絵本から発展する遊びや製作③	30		
評価方法		期末試験 70%、受講態度、模擬保育、レポート 30%			
テキスト		必要に応じてプリントを配布			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
幼稚園教育実習		実習	5	通年	山下 晶子 ・ 田中 豊一
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、幼保連携型認定こども園の実習に向けて準備し、見学実習・参加実習・責任実習をすることができる。 ・幼稚園教育実習を振り返り、自己の課題を明確にする。 				
授業の概要	<p>幼稚園、幼保連携型認定こども園の基本から始め、対象となる子どもの発達を復習しながら実習のポイントを解説する。部分実習に向けて、廃材を使った製作遊びの教材研究から指導案作成、模擬保育を行う。実習生に期待することや実習要綱を学び、実習への不安を共有する。</p> <p>実習は見学実習・参加実習・責任実習の流れで行う。実習後、振り返りを行い、幼稚園の多様性を学ぶとともに、1年生に向けて報告会で実習の成果を発表する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	幼稚園とは		16	幼稚園の多様性
	2	幼保連携型認定こども園とは		17	幼稚園教育実習報告会①
	3	3歳児の発達と実習のポイント		18	幼稚園教育実習報告会②
	4	4歳児の発達と実習のポイント			
	5	5歳児の発達と実習のポイント		実	幼稚園の1日の生活の流れ
	6	日誌の書き方		実	幼稚園の教育方針、保育の特色
	7	指導計画の作成方法		実	子どもの発達と遊び
	8	廃材を使った製作遊び①教材研究		実	子ども理解
	9	廃材を使った製作遊び②指導案作成		実	幼稚園教諭の仕事
	10	模擬保育①		実	実習日誌～記録の取り方
	11	模擬保育②		実	指導計画の作成～部分、全日
	12	実習生に期待すること～園長講話		実	指導計画の実践・振り返り
	13	実習課題の設定、実習要綱			
	14	実習への不安、直前準備			
	15	幼稚園教育実習の振り返り			
評価方法		実習園の評価と学校の評価を加味して評価する。			
テキスト		小堰智子他『幼稚園・保育所・認定こども園パーフェクトガイド』わかば社			
参考文献		文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社 内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教職実践演習（幼稚園）		演習	2	後期	田中 豊一 森田 有紀子 山下 晶子
授業の目標	教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外の様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて確認するとともに、保育実践力を養う。				
授業の概要	教職実践演習の位置づけから出発し、環境を通して学ぶ幼児教育の基本を学び、幼稚園見学を通して、学級経営や保育技術を観察する。また、幼稚園と小学校の接続についても学び、小学校の授業を見学する。並行して、現場の教員から教職の使命感、責任感、教育的愛情等を話していただくとともに、劇遊びを構想し、幼稚園等で発表する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	教職実践演習とは	16	劇遊び小道具作り～領域「環境」「表現」	
	2	履修カルテの作成	17	劇遊び小道具作り～領域「環境」「表現」	
	3	環境を通して学ぶとは	18	幼稚園の行事	
	4	幼児理解～資質能力の3つの柱	19	幼稚園の行事	
	5	劇遊び題材探し～領域「言葉」	20	劇遊び衣装作り～領域「環境」「表現」	
	6	劇遊び題材探し～領域「言葉」	21	幼稚園と小学校との接続の必要性	
	7	劇遊び役割分担	22	小学校の授業見学	
	8	劇遊び台本作り～領域「言葉」	23	劇遊びリハーサル	
	9	劇遊び台本作り～領域「言葉」	24	劇遊びリハーサル振り返り	
	10	劇遊び効果音～領域「表現」	25	劇遊び準備	
	11	劇遊び大道具作り～領域「環境」「表現」	26	劇遊び準備	
	12	劇遊び大道具作り～領域「環境」「表現」	27	劇遊び実践	
	13	幼稚園見学	28	劇遊び実践振り返り	
	14	幼稚園見学～ドキュメンテーション作成	29	履修カルテ作成	
	15	教職としての使命感、責任感、教育的愛情等	30	まとめ	
評価方法		平常の受講態度、小レポート、劇遊び計画・構想・実践・振り返りにより総合的に評価する。			
テキスト		使用しない。			
参考文献		幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
留意事項		協同して劇遊びを作り上げていくことが求められる。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習Ⅱ又はⅢ		実習	2	前期	川崎 晶子・福士 隆敏 田中 豊一・森田 有紀子
授業の目標	1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習ⅠAの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。				
授業の概要	保育者の職務を観察、模倣することを通して、保育所の役割や機能について理解を深め、日誌やエピソード記述を通して、子どもの観察や関わりの視点を明確にし、保育を理解する。養護と教育を一体的に行う保育、送迎後の保護者と保育者との様子を観察し、子育て支援について理解する。部分実習・責任実習を通じて、指導計画の作成・実践・観察・記録・評価を行う。最後に、実習を振り返り、自己の課題を明確化する。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の役割や機能の具体的展開 ・ 観察に基づく保育の理解 ・ 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 ・ 保育士の業務と職業倫理 ・ 自己の課題の明確化 				
評価方法		実習施設の評価60%、学校の評価40%			
テキスト					
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習指導Ⅱ又はⅢ		演習	1	前期	竹谷 絢子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的かつ積極的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する自己課題を明確にする。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価・課題を明確に持ち、学ぶ。 ・6月の保育園本実習に向けて日誌・エピソード記録・指導案の作成等を具体的に実践的に学ぶ。 ・保育実習に向けて模擬指導等を体験し、簡単な玩具やグッズ作りを積極的に実践し合う。 ・実習後、事後指導として、実習の総括・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育実習の意義と目的、オリエンテーションについて			
	2	保育実習Ⅱに向けての自己課題等を考察			
	3	保育所・保育士の役割－保育者の業務内容、安全管理・環境整備・衛生管理・感染症対策－			
	4	実習日誌・エピソード記録について			
	5	乳幼児期の発達理解と保育の進め方・指導案の作成について具体的に学ぶ			
	6	繋がりのある保育展開について学ぶ－保育教材・絵本や紙芝居の選定、読み聞かせポイント－			
	7	模擬保育の計画と準備（１）－指導案の作成・保育教材づくり－			
	8	模擬保育の計画と準備（２）－指導案の作成・保育教材づくり－			
	9	各グループによる模擬保育の実践（１）			
	10	各グループによる模擬保育の実践（２）			
	11	実習への心構え（保育士の職業倫理等）			
	12	実習の振り返りと自己課題の明確化（１）			
	13	実習の振り返りと自己課題の明確化（２）			
	14	保育実習Ⅱの実習報告会（１）			
	15	保育実習Ⅱの実習報告会（２）			
評価方法		日頃の受講態度、各提出物(模擬保育指導案・報告書等)、実習園評価を踏まえ総合的に評価			
テキスト		小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社			
参考文献		・必要に応じて提示する			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実践演習		演習	2	通年	川崎 晶子・田中 豊一 福士 隆敏・森田 有紀子
授業の目標	1. 学生主体でテーマを決め、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術を身につける。 2. 保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められていることは何か考察する。				
授業の概要	少人数のゼミ単位で活動する。 1. 学びの振り返り 2. 保育に関する現代的課題の分析に基づく探求				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	ゼミとは、学習課題		16	後期に向けての課題設定
	2	ゼミ課題の設定・進め方等		17	課題検討
	3	課題検討		18	課題検討
	4	課題検討		19	課題検討
	5	課題検討		20	課題検討
	6	課題検討		21	課題検討
	7	課題検討		22	課題検討
	8	課題検討		23	課題検討
	9	課題検討		24	課題検討
	10	課題検討		25	課題検討
	11	課題検討		26	課題検討
	12	課題検討		27	課題成果発表準備
	13	課題検討		28	課題成果発表準備
	14	課題検討		29	課題成果発表
	15	前期の学びの振り返り		30	課題成果発表
評価方法		平常の受講態度、課題成果発表等により評価する。			
テキスト					
参考文献					
留意事項					